法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-05-09

和仏法律学校講義録

下村，宏 / 古賀，廉造 / 吾孫子，勝 / 粟津，清亮 / 和仁，貞吉 / 鶴見，守義 / 松本，烝治 / 遠藤，忠次

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
2-13
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
51
(発行年 / Year)
1902-05-10

三十五年度　第二學年

和佛法律學校講義録

第拾參號

和佛法律學校發行

（明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可　毎月二回
明治三十五年五月十日發行）

第二學年第十三號目次

民法債權（自第二章第二節至同第十四節）（自四九至五六）　法學士　吾孫子　勝
商法會社（自一五七至一六四）　法學士　和仁貞吉
商法商行爲（自第一章至第九章）（自四九至五六）　法學士　松本烝治
商法商行爲第十章（自一六五至一七二）　法學士　粟津清亮
刑法各論（自二二三至二四八）　法律學士　古賀廉造
民事訴訟法第二編（自一六五至一八〇）　法學士　遠藤忠次
刑事訴訟法（自一二五至一二二）　法律學士　鶴見守義
財政學（自一二一至一三六）　法學士　下村宏

雜報

○舊商法ノ下ニ於ケル會社ノ登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡○僞造手形ノ行使○建造物毀壞ト器物毀棄○第二年級擬律擬判試驗

090

又ハ一部ヲ履行スルコト能ハサルトキハ或ハ買主ヨリ契約ノ解除ヲ受ケ又ハ買主ニ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任セサルヘカラス此權利移轉ノ義務ヲ完ウセサル場合ニ於テ負擔スヘキ賣主ノ責任ヲ稱シテ賣主ノ擔保義務ト謂フ故ニ擔保義務ハ權利移轉ノ義務ノ一面ト謂フヘク賣買契約其モノヨリ直接ニ生スル別箇ノ義務ニ非ス而シテ法律ハ權利移轉ノ義務ヲ十分ニ履行スルコト能ハサル場合ニ關シ主トシテ當事者ノ意思ヲ解釋シテ賣主ニ一定ノ擔保義務ヲ課シタリト雖モ契約ノ效力ハ主トシテ當事者ノ意思如何ニ依リテ定マルモノナルヲ以テ右ノ場合ニ付テモ當事者ノ意思ニ依リ全然擔保義務ヲ負擔セサルモノト定ムルコトヲ得ヘク又ハ民法第五百六十一條以下ニ定メタル責任ヲ增減シ又ハ民法ニ定ナキ場合ニ於テ擔保義務ヲ課スルコトヲ妨ケス（第五七二條參照佛國民法第千六百二十七條ハ明文ヲ以テ擔保義務ヲ輕重スルノ自由ヲ當事者ニ認ムト雖モ殆ト明文ヲ俟タサル所ナリト信ス

次ニ賣買契約ニ於テ目的物ニ關スル危險ハ買主之ヲ負擔スヘキヤ又ハ賣主ニ於テ之ヲ負擔スヘキヤニ付テハ羅馬法以來學說立法ノ岐ルル所ニシテ獨逸民

090
1902
2-1-13

第二學年第十冊講義目次

民法債權（自第二章第二節至第十四節）（自第一章第一節至第十四節）　法學士　菅原子　勝
商法會社（自第一章至第九章）　法學士　和仁純吉
商法商行爲（自第一章至第五章）　法學士　松本義郎
商法商行爲（第十章）（自第一章至第九章）　法學士　栗津清亮
刑法各論（自第一編至第九編）　法學士　吉倉汲次
民事訴訟法第二編（自第一章至第八章）　法學士　建部遯吾
刑事訴訟法（自第一章至第三章）　法學士　鵜見守興
財政學（自第一章至第三章）　法學士　下村宏

雜報

○商法ノ下ニ於ケル會社ノ法式ノ講義○訴訟ノ形式ノ講義○訴訟手續ノ行使○證拠物取扱ト證物取扱○第二年生徒ノ教授時間表

又ハ一部ヲ履行スルコト能ハサルトキハ或ハ買主ヨリ契約ノ解除ヲ受ケ又ハ買主ニ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任セサルヘカラス此權利移轉ノ義務ヲ完ウセサル場合ニ於テ負擔スヘキ賣主ノ責任ヲ稱シテ賣主ノ擔保義務ト謂フ故ニ擔保義務ハ權利移轉ノ義務ノ一面ト謂フヘク賣買契約其モノヨリ直接ニ生スル別箇ノ義務ニ非ス而シテ法律ハ權利移轉ノ義務ヲ十分ニ履行スルコトヲ期ハサル場合ニ關シ主トシテ當事者ノ意思ヲ解釋シテ賣主ニ一定ノ擔保義務ヲ課シタリト雖モ契約ノ效力ハ主トシテ當事者ノ意思如何ニ依リテ定マルモノナルヲ以テ右ノ場合ニ付テモ當事者ノ意思ニ依リ全然擔保義務ヲ負擔セサルモノト定ムルコトヲ得ヘク又ハ民法第五百六十一條以下ニ定メタル責任ヲ增減シ又ハ民法ニ定ナキ場合ニ於テ擔保義務ヲ課スルコトヲ妨ケス（第五七二條參照佛國民法第千六百二十七條ハ明文ヲ以テ擔保義務ヲ輕重スルノ自由ヲ當事者ニ認ムト雖モ殆ト明文ヲ俟タサル所ナリト信ス）

次ニ賣買契約ニ於テ目的物ニ關スル危險ハ買主之ヲ負擔スヘキヤ又ハ賣主ニ於テ之ヲ負擔スヘキヤニ付テハ羅馬法以來學說立法ノ岐ルル所ニシテ獨逸民

法第四百四十六條ハ賣渡シタル物ノ引渡ト共ニ其物ノ偶然ノ滅失竝ニ偶然ノ毀損ハ買主ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノト定メ佛國民法第千六百二十四條ハ此場合ニ關シ契約ノ總則ニ定メアル規定ニ依ルヘキモノト定メ其總則ハ債權者ノ負擔ニ歸セシム本法ハ契約ノ總則ニ於テ危險負擔ノ原則ヲ定メタルヲ以テ賣買ニ於テモ當事者間別段ノ意思表示ナキ限ハ賣主ノ責ニ歸スヘカラサル目的物ノ滅失、毀損ハ賣買契約ノ成立ト共ニ買主ノ負擔ニ歸ス(第五三四條第五三五條)故ニ或數量中ヨリ重量容積等ヲ標準トシテ賣渡スコトヲ約シタル場合ニ於テ其分量ハ一定スルモ未タ之ヲ分離セサル間ハ賣買ノ目的物ハ未タ特定物ト爲ラサルヲ以テ賣主ノ責ニ歸スヘカラサル滅失毀損モ賣主ニ歸スルヲ免レス唯之ヲ一括シテ賣渡シタル場合ニ於テノミ危險ハ賣買契約成立ト同時ニ買主ニ移轉スヘキコト勿論ナリ

上ニ述ヘタルカ如ク賣主ハ賣買ノ目的タル權利ヲ移轉スルノ義務ヲ負擔シ其結果目的物ヲ引渡シ且引渡ニ至ルマテ其目的物ヲ保存スルノ義務ヲ負ヒ又追奪ニ對シテ買主ヲ擔保スルノ義務ヲ有ス所謂追奪舊民法財產取得編第五六條以下佛國民法第一六二六條以下)トハ權利ニ基キテ奪取スルノ謂ニシテ買主カ一旦買受ケタリト信スル權利ヲ第三者カ其有ニ屬スルコトヲ證明シテ取去ルコトヲ意味ス然レトモ新民法ニ於テ廣ク追奪擔保ト云ハハ既ニ權利ノ移轉若クハ物ノ引渡アリタルト否トヲ問ハス賣買ノ目的タル權利ヲ移轉スル能ハサルカ又ハ全ナル權利ヲ移轉スル能ハサル場合ニ於ケル賣主ノ責任ヲ謂フ獨逸民法ハ其第四百三十四條ニ於テ賣主ハ買主ニ對シテ賣却シタル目的物ニ付キ第三者ヨリ買主ニ對シテ主張セラレ得ヘキ權利ヲ除去スルノ義務アル旨ノ一般的規定ヲ設ケ尚ホ各場合ニ付キ特別ノ規定ヲ設クト雖モ賣主ニ右ノ如キ一般的義務ノ存スルコトハ明文ヲ要セサル所ト謂フヘク本法ハ第五百六十條以下ニ於テ各別ノ場合ニ付キ規定ヲ設ケ所謂追奪擔保ノ責任ニ付テハ第五百六十條乃至第五百六十八條ニ其規定ヲ設ケタリ

第一　全部追奪即チ賣買ノ目的タル權利ノ全部カ他人ニ屬シテ賣主カ之ヲ買主ニ移轉スル能ハサル場合　他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲スモ買認販賣ノ如キ犯罪行爲ニ出テサル限ハ不法無效ニ非サルコトハ上ニ述ヘタル如クナ

ルヲ以テ(明治三十四年十一月二十八日大審院判決ハ他人ノ所有物ヲ以テ賣買ノ目的物ト爲シタル場合ノ無效ニ非サルコトハ民法施行前ヨリ是認セラレタル法理ナリト云ヘリ)隨テ此場合ニ於テ賣主カ權利移轉ノ義務ヲ全ウスル能ハサル場合ニ於ケル責任ヲ定ムルノ必要ヲ生ス

(甲)　買主ノ權利　買主ハ此場合ニ於テハ契約ノ當時其權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルト否トヲ問ハス常ニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得是レ相手方ノ義務不履行ニ基ク契約解除ノ通則タル第五百四十一條ノ適用ニ過キスト雖モ同條ノ原則ニ依レハ此場合ニ於テモ買主ハ相當ノ期間ヲ定メテ賣主ニ履行ヲ催告シ其期間內ニ履行ナキ場合ニ於テ始メテ賣買ヲ解除スルヲ得ルニ過キスシテ賣買ノ目的タル權利カ全然他人ニ屬シテ賣主カ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルコトノ明カナル場合ニ於テハ其履行ノ催告ハ徒勞ニ屬シ實際ノ利益ヲ見サルヲ以テ第五百六十一條ハ何等ノ催告ヲ要セス直チニ契約ヲ解除スルコトヲ得セシム加之買主ハ第五百四十五條第三項ノ原則ニ基キ賣主ニ對シ損害ノ賠償ヲ求メ得ルヲ原則トスト雖モ惡意ノ買主即チ契約ノ當時其目的タル權利ノ他人ニ屬スルコトヲ知レル買主ハ其當時ニ於テ既ニ賣主カ契約ヲ履行スルコト能ハサルコトアルヘキヲ豫想シタルモノト看做スヲ相當トスルヲ以テ損害ノ賠償ヲ求ムルノ權利ヲ付與スルコトナシ(第五六一條末段)

(乙)　賣主ノ權利　賣主ハ他人ノ權利ヲ移轉スルノ義務ヲ負ヒタルモノナルヲ以テ目的タル權利ノ他人ニ屬スルコトヲ契約當時ニ於テ知リタルト否トニ論ナク其結果ニ付キ責ニ任セサルヲ得スト雖モ賣主カ目的タル權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサル場合ニ於テ法律ハ一方ニ於テ善意ノ買主ニ對シ賣主ヲシテ其過失ノ結果ニ付キ買主ニ生シタル損害ヲ賠償スヘキ責任ヲ存セシメ以テ契約ヲ解除スルコトヲ得セシメ(第五六二條第一項)他ノ一方ニ於テ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタル買主ニ對シテハ單ニ其賣却シタル權利ヲ移轉スルコト能ハサル旨ヲ通知シテ契約ヲ解除スルノ權ヲ與ヘ以テ善意ノ賣主ヲシテ眞ノ權利者ニ對スル義務ヲ履行セシムルニ便ス(第五六二條第二項)蓋シ賣主ニ於テ賣買ノ目的タル權利カ己ニ屬セサルコトヲ發見シタルニ拘ハラス之ヲ買主ニ引渡シ若クハ既ニ引渡シタル物ヲ

買主ノ手ニ留ムルトキハ買主カ其物ヲ滅失毀損シ若クハ第三者ニ讓渡シタル場合ニ於テ賣主ハ他人ノ物ヲ賣渡シタル過失ノ責ニ任スヘキノ結果其ノ權利者ニ對シ損害賠償ノ責ヲ免ルルコト能ハス而シテ此場合ニ於テ賣主ハ買主ニ對シテ更ニ損害ノ賠償ヲ求メ得ヘシト雖モ買主カ無資力ナルトキハ救濟ノ途ナキニ至ルヘキヲ以テ善意ノ賣主ハ之ヲ惡意ノ買主ニ比シ保護スルノ理由アリト認メ右ノ規定ヲ存ス

以上ノ原則ハ取消シ得ヘキ權利ノ賣買即チ詐欺强迫無能力等ノ原因ニ基キ取消シ得ヘキ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ後日此等ノ原因ニ基キ其瑕疵アル行爲ノ取消サレタル場合ニ於テハ取消ノ效力ハ既往ニ遡ルヲ以テ(第一二一條)賣主カ當初ヨリ目的タル權利ヲ有セサリシモノト異ナラサルニ至ルヲ以テ買主ハ以上ノ原則ニ從ヒ契約ノ解除ヲ爲シ又損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第二　一部追奪即チ賣買ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ之ヲ買主ニ移轉スル能ハサル場合　賣買ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スル場合

例ヘハ賣主カ目的物ニ付キ三分ノ二ノ共有權ヲ有スルニ過キサルニ拘ハラス完全ナル所有權ヲ賣渡シ若クハ目的タル土地ノ一部カ他人ニ屬スル場合ニ其全部ヲ賣渡シタル如キ場合ニ於テモ賣主ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルノ義務アルコト勿論ナリト雖モ權利ノ一部カ他人ニ屬スルカ爲メ其一部ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサル場合又ハ買主カ一度引渡ヲ受ケタル權利ヲ追奪セラレタル場合ニ於ケル賣主ノ責任ニ付テハ本法ハ既ニ賣主カ權利ノ全部ヲ移轉スルコト能ハサル場合ニ於テ義務不履行ニ基キ契約ノ解除ヲ爲スノ權利ヲ買主ニ與ヘタルヲ以テ其一部ノ不履行ノ場合ニ於テモ亦契約ノ一部ノ解除ヲ許スヲ以テ本則ト認ム買主カ其足ラサル部分ノ割合ニ應シテ代金ノ減額ヲ求メ得ヘキコト即チ是ナリ蓋シ賣買ハ賣主カ財產權ヲ移轉スルニ對シテ買主ヨリ代金ヲ支拂フモノナルヲ以テ賣主ヨリ權利ノ一部ノ移轉ヲ受クルコト能ハサル場合ニ於テハ買主ノ善意ナルト惡意ナルト其如何ナル部分ノ欠缺スルト又其欠缺ノ大小ヲ問ハス賣買締結當時ノ市價ニ依リ其對價タル代金ノ減少ヲ求ムルコトヲ得セシムルコト相當ニシテ隨テ代金ノ減殺ハ之ヲ以テ契約

ノ一部解除ナリト認ムルヲ相當トス

(甲)　惡意ナル買主ノ權利　買主カ賣買契約締結ノ當時其目的タル權利ノ一部ノ他人ニ屬スルコトヲ知リタル場合ニ於テハ唯代金ノ減額ヲ請求シ得ルニ止マリ損害ノ賠償竝ニ契約ノ解除ヲ求ムルノ權利ヲ有セス(第五六三條第一項)

(乙)　善意ナル買主ノ權利　善意ナル買主ハ一般ノ通則ニ從ヒ代金ノ減額ヲ求メ得ルノミナラス尙ホ目的タル權利ノ欠缺カ目的物ノ重要ナル部分ニ關シ此部分ノ欠缺アルニ於テハ買主ハ當初ヨリ買受ケサルヘカリシト認ムヘキ場合ニ於テハ契約ノ解除ヲ爲シ(第五六三條第二項)併セテ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘシ是レ契約當事者一方カ義務不履行ノ結果トシテ相手方ニ對シテ負擔スル一般ノ義務ニシテ契約ノ解除ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケスト云フ通則ノ適用タリ(第五四五條第三項第五六三條第三項)其他ノ場合ニ於テハ買主ハ代金ノ減額ヲ求メ其他損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第五六三條第一項第三項)

右述ヘタル代金減額ノ請求權權利ノ一部ノ欠缺ニ基ク契約解除權竝ニ善意ノ

ナリ單ニ出資ヲ爲シ利益ノ配當ヲ受クルニ止マリ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得サルモノニシテ內部ノ關係ヨリ見ルモ將タ外部ノ關係ヨリ見ルモ社員其人ニ重キヲ置クコトナク苟モ出資ノ能力アル者ハ社員ト爲ルコトヲ得ルカ故ニ死亡シタルトキ其相續人ヲシテ社員タラシムルモ差支ナク又禁治產ノ宣告ヲ受クルモ直チニ退社セシムル必要ナシ是レ法律カ死亡及ヒ禁治產ヲ以テ有限責任社員ノ退社原因ト爲ササル所以ナリ(第一一七條)

第五章　會社ノ解散及ヒ清算

合資會社ハ商法第七十四條ニ規定シタル事由ニ因リテ解散スル外無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員ノ退社ニ因リテ解散ス之ヲ合資會社ニ特別ナル解散ノ事由トス蓋シ合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ組織スル會社ナルカ故ニ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員カ退社スルトキハ其一要素ヲ失ヒ直チニ解散セサルヘカラス然レトモ有限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テハ殘存スル社員ハ無限責任社員ノミニシテ其實質ハ合名會社

ト同一ナリ此ノ如キ場合ニ於テ無限責任社員カ一致シテ合名會社トシテ會社ヲ繼續センコトヲ欲スルトキハ之ヲ禁スル必要ナキコト尙ホ合名會社ニ於テ存立時期ノ滿了シタルトキ社員ノ全部又ハ一部カ會社ヲ繼續センコトヲ希望スル場合ノ如シ是ヲ以テ商法第百十八條ハ斯ル場合ニ無限責任社員ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ許シタリ唯此變更ハ一二ノ登記事項ノ變更ニ非スシテ會社ノ組織ヲ變更スルモノナルカ故ニ合名會社ノ場合ノ如ク變更登記ヲ爲スヲ以テ足レリトセス是ヲ以テ商法第百十八條第二項ハ前段ノ場合ニ於テハ二週間內ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要スト規定セリ二週間ノ期間ハ會社ヲ繼續スヘキ決議ヲ爲シタルトキヨリ起算ス會社ハ此規定ニ從ヒ合資會社ニ付テ解散ノ登記ヲ爲スト雖モ是レ唯登記ノ整理ヲ爲スニ過キスシテ其實解散シタルモノニ非ス隨テ普通解散ノ場合ニ於ケルカ如ク清算手續ヲ開始スルコトナク前會社ト後會社トハ法律上全ク同一體ニシテ其間ニ權利義務ノ移轉アルコトナシ

合資會社ノ清算ニ付テハ特別ノ規定ナキヲ以テ合名會社ノ清算ニ關スル規定ヲ準用セラルルモノトス

第三編　株式會社

第一章　株式會社ノ意義

株式會社ハ資本ヲ株式ニ分割シ社員ハ其有スル所ノ株式ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スル會社ナリ今左ニ株式會社ニ特別ナル事項ヲ擧ケテ說明スヘシ

第一　株式會社ノ社員ノ數ハ七人以上ナルコトヲ要ス(第一一九條第二二一條第三號)合名會社及ヒ合資會社ニ在リテハ社員ノ數ニ制限ナシ外國ノ法律ニ於テハ社員ノ最少數ヲ以テ株式會社ノ設立ノ要件ト爲スニ止マリ敢テ之ヲ以テ會社存續ノ要件ト爲サヽルモノアレトモ我商法ニ於テハ之ヲ以テ會社ノ設立及ヒ存續ノ要件ト爲シタリ

第二　資本ハ一定ノ株式ニ分割セラルル株式ノ何モノタルカハ後ニ論述スヘシト雖モ之ヲ約言スレハ社員カ會社ニ對シテ有スル財產上ノ權利義務ヲ形

成スルモノニシテ金額ヲ以テ之ヲ表彰セリ即チ會社ノ資本ヲ分割スル一ノ單位ナリ株式ヲ有スル者ヲ株主ト謂フ株主カ會社ニ對シテ有スル權利義務ノ範圍ハ皆株式ヲ標準トシテ之ヲ定ム株式會社ノ社員タル者ハ少クトモ一箇ノ株式ヲ有セサルヘカラス社員ハ株式ヲ有スルニ因リテ會社ニ干與スルモノナリ

第三　株主ハ總テ有限ノ責任ヲ負擔ス　株主ノ責任カ有限ナリト謂フハ二ツノ意義ヲ有ス之ヲ合資會社ノ有限責任社員ノ有限責任ニ對照シテ觀察スルトキハ會社ノ債務ニ付キ何等ノ責任ヲ有セサルコトナリ然レトモ株主ハ此他如何ナル場合ニ於テモ其引受又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ超エテ出資ヲ爲スノ義務ナシ是レ商法第百四十四條第一項ノ規定スル所ニシテ株主ノ有限責任ハ此點ニ於テ他ノ會社ノ社員ノ責任ト大ニ異ナレリ

第四　株主ハ自由ニ株式ヲ讓渡スルコトヲ得ルヲ原則トス　合名會社及ヒ合資會社ニ於テ社員カ其持分ヲ讓渡スニハ他ノ社員ノ同意ヲ必要トスレトモ株式會社ニ在リテハ此ノ如キコトナシ是レ株式會社カ純然タル資本團體ニシテ社員ノ人的信用ヲ重セサル當然ノ結果ナリ

我商法ニ於テ株式會社カ他ノ種類ノ會社ト異ナル要點ハ以上列擧スル所ニ止マレトモ外國ノ法律ニ於テハ此他重要ナル區別アリ即チ獨逸ノ商法ニ於テハ株式會社ハ商業ヲ目的トスルコトヲ必要トセスシテ苟モ株式組織ノ團體ハ總テ之ヲ株式會社トス我舊商法モ之ト同一ノ規定ヲ爲シタリキ新商法ニ規定セル株式會社ハ必ス商業ヲ營ムコトヲ目的ト爲ササルヘカラス何トナレハ株式會社ハ商法第四十二條ニ規定スル會社ノ一種ナレハナリ唯民法第三十五條ニハ營利ヲ目的トスル社團法人ハ會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ得且其法人ニハ總テ會社ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトヲ定メタリ故ニ營利ヲ目的トスル民事會社ニシテ株式組織ニ依ルモノニハ總テ株式會社ニ關スル商法ノ規定ヲ準用スヘキモノナレトモ其會社ハ決シテ株式會社ニ非ス

以上述フルカ如ク株式會社ハ純然タル資本團體ニシテ各株主ハ其有スル株式ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負ヒ如何ナル場合ニ於テモ其金額ヲ超エテ損失ヲ受クルコトナシ是ニ於テ株式會社ニハ二ツノ危險アリ一ハ株主ニ對スルモノ

ニシテ一ハ會社ノ債權者ニ對スルモノナリ

第一　株主カ會社ノ事業ニ對シ有スル利害ノ關係ハ甚タ重要ナルモノナラサルカ爲メ殊ニ多數ノ株主ヲ有スル會社ニ在リテハ株主ハ取締役及ヒ監査役ニ萬事ヲ一任シ自ラ株主タル權利ヲ行使セサル弊害アリ是ヲ以テ取締役又ハ監査役ハ株主ノ無智ナルニ乘シ巧ニ不正ノ利益ヲ貪リ株主ノ利益ヲ竊食スルノ危險ヲ生ス

第二　凡ソ人ハ財產ヲ失ヒタルトキハ彌事業ニ精勵シ損失ヲ同復センコトヲ力ムルモノナレトモ株式會社ニ在リテハ株主ノ利害關係甚タ重要ナラサルカ爲メ會社カ大ナル損失ヲ被リ事業ノ衰頽ヲ來シタルトキニ當リテハ株主ハ社運挽回ノ策ヲ講スルヨリモ寧ロ速ニ株式ヲ他人ニ讓渡シ自己一身ノ損失ヲ少カラシメ更ニ他ノ會社ノ株主ト爲ラントスルハ普通ノ狀態ナリ是レ會社債權者ノ最モ恐ルル危險ナリ

夫レ此ノ如ク株式會社ニハ二ツノ危險アルカ故ニ法律ハ株主及ヒ會社債權者ノ利益ヲ保護スルカ爲メ種種ノ取締規定ヲ設ケタリ

第二章　株式會社ノ設立

第一節　總論

株式會社ノ設立ニ付テハ古來四主義アリ(一)立法主義(二)免許主義(三)準則主義(四)公示主義是ナリ第一ノ立法主義ハ立法上ノ行爲ヲ以テ株式會社ヲ設立スルモノニシテ第十七世紀、第十八世紀ニ於テ廣ク行ハレタレトモ今日此主義ヲ採用スルモノナシ第二ノ主義ハ會社ノ設立ニ政府ノ免許ヲ要スルモノニシテ我舊商法ハ此主義ヲ採用ス第三ノ主義ハ會社ノ設立ニ關シ一定ノ法則ヲ定メ之ヲ遵守スルトキハ自由ニ會社ヲ設立スルコトヲ得ルモノニシテ新商法ハ此主義ヲ採用セリ第四ノ主義ハ會社ノ設立ニ付テ一定ノ法定事項ヲ公示セシムルノミニシテ其他ハ一切人ノ自由ニ任ス昔時大ニ株式會社ノ勃興スルニ當リ諸種ノ弊害湧出セシヲ以テ之ヲ取締ルカ爲メ各國皆免許主義ヲ採用シタレトモ後世其有害無益ナルコトヲ覺知スルニ至リ皆之ヲ廢止シ今尙ホ之ヲ存スルハ僅ニ墺太利、和蘭、羅馬尼亞ノ三國アルノミ免許主義ノ採用スヘカラサル理由ノ主

要ナルモノヲ擧クレハ(イ)設立ニ付キ免許ヲ必要トスルトキハ之ニ付キ種種ノ手續ヲ踐ミ多クノ日月ヲ費ササルヘカラス然ルニ商業ハ最モ時機ヲ尊フカ故ニ此等ノ繁雜ナル手續ノ爲メ或ハ商業上ノ機會ヲ失ヒ始メ有望ナリシ會社モ終ニ設立スルコト能ハサルニ至ル(ロ)會社ノ目的ニハ種種アリテ其事業カ果シテ成效スルヤ否ヤハ政府ノ官吏ト雖モ其判斷ヲ誤マルコトナキヲ保セス而シテ一タヒ其判斷ヲ誤マルトキハ或ハ有益ナル會社ノ設立ヲ妨ケ或ハ發起人ヲシテ免許ヲ口實トシテ世人ヲ瞞著スルノ機會ヲ得セシム是レ新商法カ現今多數ノ立法例ニ倣ヒ免許主義ヲ廢シ準則主義ヲ採用シタル所以ナリ左ニ株式會社ノ設立ニ付テ遵守スヘキ手續ヲ說明スヘシ

株式會社ノ設立ニハ二ツノ方法アリ一ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケ之ニ因リテ會社成立スルモノ之ヲ同時設立ト謂フ一ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケスシテ其引受ケサル株式ニ付キ株主ヲ募集シ之ニ因リテ會社成立スルモノ之ヲ漸次設立ト稱ス其何レノ方法ニ依ルヲ問ハス株式會社ノ設立ニハ先ツ發起ナカルヘカラス舊商法ハ發起ト設立トヲ區別シタレトモ新商法ハ發起ヲ以テ

(ロ)直チニ發見スルコト能ハサル瑕疵アリタル場合ニ於テ六箇月內ニ之ヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

(二)賣主カ此義務ニ違セタル場合ニ於テハ制裁ハ如何元來此義務ハ歐洲中古ノ商慣習ニ基キタルモノニシテ獨逸法ト羅馬法トノ混合調和セルモノナリ即チ獨逸法ニ於テハ賣主カ一旦物品ヲ受取リタルトキハ何等ノ請求ヲモ爲スコトヲ得サルヲ原則トシタルモノニシテ之ニ反シテ羅馬法ニ於テハ檢査通告ノ義務ヲ負フコトナクシテ契約解除損害賠償等ノ請求ヲ爲スコトヲ得タルナリ而シテ此檢査通告ノ義務ハ「コーサック」ノ言ヘルカ如ク賣主ノ負ヘル積極的ノ義務ニ非スシテ此義務ヲ怠ルトキハ其賣主ニ對スル權利ヲ失フヘキコトヲ減メタルモノニ過キサルナリ(「コーサック」商法教科書第五版第一九〇頁)故ニ此義務ヲ忘レルコトノ制裁ハ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルニ止マレリ

(三)此規定ハ適用ノ範圍廣キ如シ

(イ)瑕疵ト數量不足トノ場合ノミニ限ル其他ノ賣主カ擔保義務ヲ有スル場合

ヲ含マスト雖モ物品不足ノ場合ニハ常ニ賣主ハ其代價ヲ保管シ又ハ供託

(ロ) 賣主ニ惡意アリタル場合ニ適用ナシ

(ハ) 反對ノ特約アリタル場合ニ適用ナシ公益規定ニ非サレハナリ

第四　物品保管ノ義務

商人間ノ賣買ニ在リテハ特定ノ場合ニ於テ賣主ニ負ハシムルニ物品ヲ保管シ又ハ供託スルノ義務ヲ以テシ以テ賣主ヲ保護シ取引ヲ安全ナラシメタリ(第二八九條及ヒ第二九〇條)

(一) 次ノ場合ニ於テ賣主ニ物品ヲ保管シ又ハ供託スルノ義務アリ但勿論賣主ノ費用ヲ以テ之ヲ爲スモノナリ

(イ) 賣主カ目的物ノ瑕疵若クハ數量ノ不足ニ因リテ契約ヲ解除シタル場合

(ロ) 賣主カ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル場合

(ハ) 賣主カ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ在リテ其超過額

(二) 物品カ滅失又ハ毀損シ虞アルトキハ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管シ又ハ供託スル義務アリ此場合ニ於テハ

(イ) 裁判所ノ許可ヲ得テ競賣スヘシ是レ第二百八十六條ノ場合ト異ナル所ナリ

(ロ) 競賣ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク賣主ニ對シ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

(三) 上述ノ買主ノ物品保管ノ義務ハ異地賣買(Distanzkauf)ノ場合ニ限リテ適用アリ同地賣買(Platzkauf)ニハ買主ニ其義務ヲ負ハシメス賣主カ容易ニ物品ノ返還ヲ求メ得ヘケレハナリ第二百八十九條第三項之ヲ定メタリ曰ク前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所ヲ同市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セス

第五　特種ノ賣買

次ニ三四ノ特種ノ賣買ニ付テ說明セントスル

(一) 確定期賣買(Fixhandelskauf)

(イ) 確定期賣買ハ所謂確定期契約(Fixgeschäft)民法第五百二條ノ一種ニシテ當事者ノ一方若クハ雙方ノ履行ネ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ爲サルルコト

ヲ必要トスル賣買ナリ(第三八七條)又ハ日和又ハ一定ノ限期內ニ買ヒ又ハ賣ルヤウニ
確定期賣買ハ期限附賣買タルコトヲ要ス當事者雙方カ賣買契約ヲ締結ト同時
ニ其履行ヲ爲ス場合ニハ確定期賣買ナキナリ然レトモ必スシモ一定ノ日時ニ
履行セラルルコトヲ要スルモノニ限ラス一定ノ期間內ニ履行セラルルコトヲ
要スルモノニテモ確定期賣買タルコトヲ得
確定期賣買ニ在リテハ一定ノ日時又ハ一定ノ期間內ニ履行ヲ爲スコトヲ要セ
ラルル者ハ多クノ場合ニ於テハ賣主ニシテ或物品ノ權利移轉及ヒ引渡ヲ以テ
其履行トスルモノナレトモ買主ノ代金支拂ノ義務カ一定ノ日時又ハ一定ノ期
間內ニ履行セラルルコトヲ要セラルル場合亦ナシトセス獨逸商法第一ノ
場合ノミヲ豫想セルモ同法第三五七條其新商法及ヒ我商法ニ在リテハ上述ノ
二場合ヲ含メルモノナリ(獨逸新商法第三七六條參照)
(ロ)確定期賣買ハ賣買ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ因リテ生ス賣買ノ性質トハ
例ヘハ一定ノ慶事若クハ凶事ニ當リテ用フヘキ衣服食物等ノ賣買ノ場合ヲ指
スヘキモノナランカ此ノ如キ場合ニハ當然確定期賣買ト爲スノ暗默ノ意思表

示アリタリト看做シテ可ナルモノノ如シ
(ハ)確定期賣買ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲スコトナクシテ其時期
ヲ經過シタルトキハ相手方ハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做サル若シ相手
方ニシテ契約ノ解除ヲ爲サスシテ其履行ヲ請求セント欲スルトキハ其時期經
過後直チニ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス是レ民法第五百四十二條ト異ナル
所ニシテ民法ニ於テハ催告ヲ爲サスシテ直チニ解除スルコトヲ得ルニ止マリ
履行ノ請求ヲ爲ササルニ因リテ解除ノ推測ヲ受クルコトナキナリ獨逸商法ノ
規定ハ此點ニ付テハ寧ロ我民法ト同樣ナリ(第百三十二條參照)
(二)試品賣買(Kauf nach Probe)
商標見本雛形又ハ試品ヲ以テスル賣買ニシテ賣主ハ其物品カ其試品ニ適合ス
ヘキ義務ヲ負フモノナリ此場合ニハ賣買ハ無條件ニ成立セルモノニシテ唯賣
主ノ擔保義務カ特別ノ約定ニ因リテ加重セラレタルモノナリ(舊商法第五三三
條參照)
(三)點檢賣買(Kauf auf Probe)

買主カ點檢又ハ嘗試ノ上ニテ自己ノ意ニ適シタル場合ニ其物品ヲ買フ賣買ヲ謂フ此賣買ニ付テハ各種ノ學說アリ舊商法第五百三十二條第一項及ヒ獨逸民法第四百九十五條第一項ハ之ヲ買主カ其物ヲ承諾セサルヿ停止條件附ノ賣買ナリト解セリ然レトモ我民法及ヒ新商法ニハ別ニ規定ナキヲ以テ各箇ノ場合ニ於テ當事者ノ意思ニ依リテ解釋スルノ外ナケレトモ最モ多クノ場合ニ於テハ當事者ノ意思ハ舊商法ノ規定ノ如ク停止條件附ノ賣買トスルモノナルヘシ此種ノ賣買ノ效力ニ關シテハ猶ホ舊商法第五百三十二條第二項及ヒ獨逸民法第四百九十五條第二項、第四百九十六條ヲ參照スヘシ

(四) 試驗賣買(Kauf nur Probe)

試驗ノ爲メニ或物品ヲ買フ賣買ニシテ買主ハ自己ノ意ニ適シタル場合ニハ續續同一物品ヲ買フコトアルヘキモ是レ買主一箇ノ心理ノ條件ニシテ法律上ハ單純ナル賣買ナリトス

(五) 取引所ノ賣買(Boersengeschaefte)

(イ) 取引所法第十八條ニ依レハ取引所ノ賣買ヲ分チテ直取引、延取引及ヒ定期取引ノ三トス此區別ハ契約履行ノ時期ニ依ル區別ニシテ直取引ハ當日ヨリ五日以內、延取引ハ百五十日以內ニ於テ賣買雙方約定ノ日限ニ依リ定期取引ハ三箇月以內取引所指定ノ限月ニ依ルモノナリ(明治二十六年勅令第七十四號第一二條)

延取引及ヒ定期取引ハ共ニ履行カ期限ニ繫レル期限附賣買契約ニシテ其間ノ區別ハ當事者任意ノ期限ニ繫レルト又ハ取引所指定ノ期限ニ繫レルトニ在リ直取引ハ亦或ハ五日以內ニ於ケル當事者ノ任意ノ期限ニ繫レル賣買ナルカノ如キ外觀アレトモ之ヲ取引所法ノ前身ナル明治七年太政官布告株式取引條例、同十一年布告株式取引所條例及ヒ明治九年布告米商會所條例(同十三年第十九號布告ニ依リテ改正)ニ徵スルトキハ所謂現場勘定又ハ現場取引ニ當ルモノニシテ即時履行ノ契約ナリ唯五日ノ猶豫期間ヲ與ヘタルモノト解スルヲ以テ妥當ナリトスヘキナリ

(ロ) 取引所ニ於テ賣買ヲ爲ス當事者ハ株式組織ノ取引所ニ在リテハ仲買人、會員組織ノ取引所ニ在リテハ會員又ハ仲買人ニ限ル而シテ會員ハ自己ノ計算ヲ

以テスルノ外取引所ノ賣買ヲ爲スコトヲ得ス仲買人ハ他人ノ計算ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得(取引所法第一二條)

(ハ)取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス(取引所法第二五條)而シテ取引所ノ定期取引ニ限リテ用ヒ得ル方法ハ明治二十六年勅令第七十四號第十三條之ヲ列擧セリ即チ左ノ如シ其說明ハ頗ニ亘ルヲ以テ之ヲ略サン

一　米單位ヲ定メテ賣買スルノ方法(所謂單位賣買)

二　競賣買ヲ爲スノ方法

三　米ニ限リ標準物ヲ以テ賣買契約ヲ爲シ取引所ニ於テ隨メ指定スル同種商品ノ格付ニ從ヒ代品ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法(所謂標準物賣買)

四　契約期限內ニ於テ爲シタル轉賣買戻ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スル所ニ依リ相殺スルノ方法(所謂轉賣買戻)

五　賣買雙方ヨリ證據金ヲ差出サシムルノ方法

ト思惟ス

一ノ被保險利益ニ付テ數箇ノ保險契約者カ參同スル點ニ於テ重複保險ニ似タルハ共同保險ナリ兩者ノ差異ハ前者ハ總保險金額カ保險價額ヲ超過スル場合ヲ謂ヒ後者ハ保險者カ保險價額ヲ共同分擔スルノ點ニ存ス例ヘハ千圓ノ保險價格アルモノヲ五人ノ保險者カ二百圓宛ノ保險金額ニ依リテ擔保スルカ如シ保險金額カ保險價額ニ充タサル場合ハ其殘餘ニ付テハ自身ニ共同保險ニ加入セリト謂ツテ可ナリ勿論被保險者ハ自身ニ保險者アルニ非サレトモ自己ノ利益ハ自己カ保護シ自己ノ損害ハ自己カ負擔スルノ道理ヨリ保險ニ付セラレサル部分ニ付テハ自ラ保險者ノ地位ニ立ツモノト考ヘテ可ナリ商法第三百九十一條ニ「保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム」トアルハ即チ共同保險ニ於ケル損害塡補ノ計算方ヲ規定シタルモノニシテ共同保險者カ自己ナルト保險者ナルトヲ問ハス適用セラルヘキ條項ナリ共同保險ニ於テモ被保險者カ各保險者ニ對シテ其事實ヲ通知スルノ義務ヲ規定スヘキ必要アルコト重複保險ニ於ケ

ルカ如シ

一ノ被保險利益ニ付テ數箇ノ契約カ結結セラルル點ニ於テ重複保險ニ似タルモノ尙ホ一アリ即チ再保險又ハ戻保險ト謂フ既ニ說明シタルカ如ク一ノ利益ニ付テ擔保ノ責ニ任シタル保險者カ其責任即チ自己ノ被ルコトアルベキ損害ヲ再ヒ他ノ保險者ニ保護セシメントスルモノニシテ保險ノ目的ハ其實本來ノ被保險利益ニ非スシテ之ヲ保護スル爲メニ失フコトアルヘキ自己ノ利益ニシテ此點ハ重複保險及ヒ共同保險ト異ナレリ普通ノ保險ニ於テハ其目的カ物件ト人トノ關係アリ或ハ人ト人トノ關係アルニ過ノ場合アルニモ拘ハラス再保險ニ於ケル被保險利益ハ常ニ債權ノ關係ナク再保險ノ目的タル利益ノ包容ハ必スシモ原保險ト同一ナラス例ヘハ保險金額ノ差異アルコトアリ即チ原契約ノ金額ハ千圓ナルモ其中五百圓ヲ再保險ニ付スルコトアリ又例ヘハ危險ノ一部ヲ再保險ニ付スルコトアリ即チ火災保險ニ於テ原契約ニ於テハ總テノ種類ノ火災ニ對スル賠償ヲ約スルモ再保險ニ於テハ單ニ類燒ノ危險ヲ約シ又ハ單ニ自火危險ヲ約スルカ如シ又生命保險ニ於テ原契約ハ養老保險ナルモ再保險

ハ定期保險ナルヲ妨ケサルカ如シ再保險ハ總テ原保險ヲ基礎トスルカ故ニ原保險無效ナル場合ハ再保險モ亦無效ナリ

再保險ハ保險ノ進步シタル外國ニ於テハ殆ト如何ナル種類ノ保險ニモ應用セラルルト雖モ最モ盛ナルハ海上火災ノ保險ニ在リ再保險會社アリテ單ニ再保險ノミヲ引受クルモノアリ再保險ノ保險料ハ原保險ト契約ノ包容同一ナル場合ニハ通常原保險ニ於ケル保險料ト同一ナリトス何トナレハ再保險ハ自己ノ得意ヲ他ニ分與スト謂フ趣旨ヨリハ自己ノ危險ヲ他ニ分擔セシムルノ趣旨ニ出テタルモノニシテ隨テ原保險料ヨリ寧ロ高キ保險料ヲ拂フ場合アリ然レトモ再保險ハ通常保險者間ノ協力ト德義トヲ基トシテ行ハルルモノナルカ故ニ或場合ニハ原保險料ヨリ廉ナル場合アリ

被保險利益ハ現存セル利害關係人ノ外ニ之ニ附隨シテ必然起ル所ノ損害又ハ費用ヲ包含ス例ヘハ商法第四百二十條ニ「消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者之ヲ塡補スル責ニ任ス」ト規定スルカ如キ又第六百五十七條ニ「積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其

價額及ヒ船積並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス」トアルカ如ク其他人ニ對スル責任ハ保險ノ目的タルコトヲ得其適例ハ前述ノ再保險ノ如シ是レ一ノ保險者カ被保險者ニ對スル賠償ノ責任ヲ目的トシテ第二ノ契約ヲ締結シタルナリ之ト同シク運送人倉庫主質店等ハ其預物ニ對シテ被保險利益ヲ有シ又鐵道會社カ線路ニ沿ヒタル家屋森林等ニ付テ火災保險ノ被保險利益ヲ有スルカ如キ又前述ノ「ハフトプリヒト」保險ノ如キハ其好例ナリ又必然ナル利益ノ希望ハ被保險利益タルコトヲ得商法第四百二十四條第二項ニ「運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アルトキニ限リ之ヲ保險價額中ニ算入ス」トアリ又第六百五十八條ニ「積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推定ス」トアルカ如キ其ニ現ニ存セサルモ將來存在シ得ヘキモノハ保險ニ附セラルル利益トスルナリ收穫保險ノ如キ場合ニ保險ヲ目的物ハ契約ノ當時ニ毫モ存在セス契約ノ際ハ茫茫タル田地ト蒔キタル種子ノミ其種子ノ價ハ些少ノモノナリ然レトモ適當ノ勞力ヲ加ヘ一定ノ時期ヲ經ルトキハ必然多量ノ米穀ト爲リテ大ナル價格ヲ作リ得ヘキモノナルカ故ニ其價ヲ初ヨリ被保險利益ト爲スコトヲ得ルナリ

第二　保險料

保險契約カ有價契約ナルコトハ前述ノ如シ而シテ保險料ハ即チ契約ノ報酬トシテ保險者ノ受クル代價ナリ斯ク法律上ヨリ觀察スレハ保險料ハ保險者カ保險契約者ニ與フル所ノ利益ニ對スル報酬ナレトモ經濟上ヨリ保險料ノ性質ヲ分析シテ研究スルトキハ一ノ報酬中ニモ自ラ異種ノ原素ヲ包含スルコトヲ知リ得ヘシ

先ツ保險者カ保險契約者ニ對シテ與フル所ノ利益ハ如何ト謂フニ第一被保險利益ヲ保險シ該利益カ一定ノ危險ノ爲メニ損傷セラレタルトキニ補償スルニ在リ是レ即チ危險擔保ノ力ナリ而シテ此擔保力ハ形式的ニハ保險者ノ供スル所ノモノナレトモ實質上ヨリ論スレハ保險者ノ供スル力ニ非スシテ共同ノ保險者ト契約スル所ノ多數ノ保險契約者カ自然ニ形造ル一團體ノ供スル所ノ力ナリ而シテ保險者ハ此團體ノ代理者若クハ管理者又ハ周旋人トシテ擔保力ノ

施行ヲ爲スモノニシテ此執行ノ力ハ保險者ノ與フル所ノ第二ノ利益ナリ之ハ此二種ノ利益ハ通常ノ保險ニ存在スルモノニシテ普通ノ保險料ハ此二種ノ利益ニ對スル別別ノ報酬ノ結合シタルモノナリ然ルニ或種類ノ保險就中著シキハ生命保險ニ於テハ未來ニ於ケル報酬ヲ契約ノ便宜上前納スル場合多シ而シテ是レ亦報酬ニ相違ナキモ前述ノ擔保力ニ對スルモノトハ少シク異ナリタル點アリ即チ前者ハ危險ノ經過ト共ニ保險者ノ利益ニ歸シ去ルモノナリト雖モ後ノ報酬ハ未タ保險者ノ手ニ歸スル能ハス恰モ保險契約者ヨリ保管ヲ託セラレタル如ク慎重ナル注意ヲ以テ貯藏シ置カサルヘカラス責任準備金ト稱スルモノ即チ是ナリ未來ノ保險ニ進入セサル間ニ契約カ解除セラルル場合ニ於テハ保險契約者ニ返還セサルヘカラサル部分ナリ故ニ此場合ニハ保險料ハ三種ノ報酬ヨリ成立スルモノナリ即チ

(一) 純然タル危險擔保ノ報酬(純保險料)

(二) 擔保力執行ノ報酬(附加保險料)

(三) 條件附報酬(責任準備金)

是ナリ以上ハ保險料ノ經濟的性質ヲ說明シタルモノニシテ其原素ノ如何ニ拘ハラス法律上ヨリ論スレハ一ニ保險契約ニ於ケル報酬トシテ保險者ノ權利ニ屬スルモノト看做シテ可ナリ唯法律ヲ解釋スルニ付テ便利ナルヲ以テ聊カ區別ヲ試ミタルノミ例ヘハ商法第四百七條ニ於テ「保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得」又第四百八條ニハ「保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス」ト規定セルニ對シテ次ノ第四百九條ニ於テ「前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得」ト定メタルヲ見ヨ責任ノ始マラサル前トハ擔保力ノ發生セサル前ニシテ此場合ニハ擔保ノ利益ハ未タ寸毫モ保險契約者ニ對シテ供給セラレサルモ保險者カ保險契約者ノ團體ヨリ委任ヲ受ケタル周旋ノ力ハ既ニ當該契約者ニ供シタルカ故ニ之ニ對スル報酬ヲ請求スルノ權ヲ付與セラルヘキハ當然ナリ返還スヘキ保險料ノ半額ト

ハ立法者カ別段ノ標準ニ據ラスシテ見計ヲ以テ定メタル高ナレトモ附加保險料ヲ標準トスルヲ至當ト思惟ス又第四百三十一條及ヒ第四百三十二條ニ於テ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ト稱セラルルハ所謂條件附ノ報酬即チ責任準備金ノ謂ニシテ保險者カ報償ノ義務ヲ盡スコトヲ要セサル場合又ハ減原因ニ由リテ契約ノ解除セラルル場合ニ保險契約者カ返還ヲ受クヘキ性質ノ金額ナリト知ルヘシ

保險料ハ契約ニ對スル報酬ナルカ故ニ契約ノ履行ヲ待チテ拂込ヲ爲スヲ當然トスルカ如シト雖モ通常保險契約ハ締結ト履行ニ至ルマテニ長キ期間ヲ要スルコトト若シ保險料ヲ契約履行ノ後ニ授受スルコトトセハ保險契約者ノ不拂多カルヘキコトト又危險發生ノ場合ニノミ拂込ミテ無事ニ危險ヲ經過シタル場合ニハ拂込マサル憂アル等ノ事情ニ因リ契約ノ締結ト同時ニスルカ寧ロ第一回保險料ノ拂込ヲ以テ契約成立スルモノト爲スヲ普通ノ習慣トセリ我商法ニ於ケル諸種ノ規定モ此前拂ノ習慣ニ從ヒテ起草セラレタリ例ヘハ第四百八條及ヒ之ニ關聯スル條項ノ如シ然レトモ契約期間ノ比較的短キ場合若クハ當

チテ行動スルモノヲ指シテ國內戰爭ト名ケ之ヲ以テ戰爭ノ一種ト爲セリ例ヘハ米國ノ南北戰爭ノ如ク西國ノ內亂ノ如シ此二國ノ內亂ニ於テ正當ニ兵權ヲ有スル者ハ統治ノ主權者以外ニ於テ之ヲ求ムヘカラサルカ故ニ正當ノ暴力ヲ行使スル者ハ唯一方ニシテ他ノ一方ハ常ニ不正當ノ暴力ニ非サレハ之ヲ行使セサルナリ然レトモ國際慣例ハ此ノ如キ內亂ヲ名ケテ一種ノ戰爭ナリト認メタリ故ニ正當ノ暴力ト不正當ノ暴力ト相衝突スル場合之ヲ名ケテ內亂又ハ國內戰爭ナリト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ刑法ニ於テハ內亂トアリテ內國ノ戰爭ト云ハサルカ故ニ其戰爭ノ形式ヲ備ヘス若クハ戰爭ニ至ラサル一種ノ騷擾又ハ暴動ヲモ之ヲ包含スルモノト謂ハサルヘカラス例ヘハ竹鎗席旗ノ暴動ニ過キサルモ其目的朝憲紊亂ニ在レハ則チ內亂ヲ以テ之ヲ觀ルモ毫モ其不可ヲ見サルナリ戰爭ニ付テハ公法學上一定ノ條件ナキニシモ非スト雖モ其暴動ト區別スヘキ標準ニ至リテハ之ヲ求ムルコト能ハサルカ故ニ學者モ亦同一事實ニ據リテ以テ之ヲ區別スルノ外他ニ方法ナシト斷言スル者多シ即チ如何ナル場合ヲ以テ戰爭ト爲スカ又如何ナル場合ヲ以テ暴動ト爲スカ是レ唯當時ノ情

況ニ依リテ定マルヘキ事實問題ニ過キサルナリ之ヲ要スルニ朝憲紊亂ノ目的ト內亂ノ二條件ハ國事犯ノ構成上必要ノ條件ナルヲ以テ其一ヲ缺クトキハ則チ如何ナル場合ニ於テモ國事犯ヲ構成スルモノニ非ス故ニ民間ノ一會社ヲ破壞スルノ目的ヲ以テ不正暴動ヲ用フルモ之ヲ以テ戰爭ナリト謂フヘカラス又竹鎗席旗ノ暴動モ內閣ノ更迭ヲ謀ルトキハ則チ之ヲ以テ國事犯ナリト謂フヲ得ヘシ

以上國事犯ノ構成條件ヲ論シ了レリ是ヨリ其犯人ノ責任ニ付テ研究スル所アラントス

一　首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

(イ)　首魁　首魁トハ內亂ノ長ト爲リテ其全般ノ指揮ニ任スル者ヲ謂フ首魁ハ或ハ總指揮者ト爲ル場合アリ或ハ原動者ト爲ル場合アリ

(ロ)　教唆者　本條ハ何故ニ教唆者ニ付テ一言セシヤ教唆者ノ責任ハ明カニ總則ノ共犯例ニ於テ規定スル所ナレハ本條ノ規定ナキモ本條各號ノ教唆者ヲ罰スルニ付キ毫モ苦ム所ナキナリ然ルニ本條ニ於テ規定スル所ノ教唆ヲ觀レハ「首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス」トアリテ教唆行爲ノ區別ニ從ヒテ其責任ヲ異ニセス國事犯ノ教唆ハ首魁ニ對シテ之ヲ行フモ又僞要ノ職務ヲ行フ者ニ對シテ之ヲ行フモ常ニ死刑ヲ免レサルモノナリ是レ總則ト大ニ其趣ヲ異ニスル所ニシテ特ニ本條ニ於テ教唆者ノ規定ヲ設クルニ至リタル所以ナリ刑法ノ趣意果シテ此ニ在リトセハ予輩ハ大ニ此規定ノ理由ナキコトヲ難セサルヲ得サルナリ總則ニ依レハ教唆者ハ其教唆シタル行爲以下ノ責ニ任スルコトアルモ決シテ其教唆シタル行爲以上ノ責ニ任スヘキモノニ非サルナリ蓋シ教唆者ハ犯罪ノ原動者ニ過キサレハ如何ナル場合ニ於テモ犯罪ノ實行者以上ノ責ニ任スヘキノ理由ナキナリ然ルニ內亂罪ニ於テハ犯罪ノ實行行爲ヲ區別シテ四段ト爲シ各其責ヲ異ニシタルニ拘ハラス唯リ教唆ニ至リテハ各般ノ場合ニ亘リテ其責常ニ同一ナリト云フハ果シテ如何ナル必要アリテ然ルヤ予輩其眞意ノ在ル所ヲ知ルニ苦ムナリ論者或ハ曰ハン本條第一號ニ所謂教唆者ハ是レ唯首魁ノ教唆者ヲ謂フモノニシテ第二號以下ノ實行者ヲ教唆シタル者ヲ指スニ非サルナリト然レトモ予ヲ以テ之ヲ觀レハ第一號ニ於テ既ニ教唆者ノ責任ヲ定メ而

シテ第四號ニ「教唆ニ乘シテ附加隨行シ云云」トアルヲ以テ觀レハ第四號ニ謂フ所ノ教唆ハ第一號ノ教唆者ト脈絡貫通スルコト毫モ疑ヲ容レサルナリ即チ第一號ニハ教唆者ノ責任ヲ定メ第四號ニハ其教唆者ノ教唆ヨリ生シタル結果ヲ示シタルモノナルカ故ニ附和隨行ノ教唆ナリト雖モ第一號ノ教唆者ノ責ヲ負ハサルヲ得サルヘシ若シ論者ノ言ノ如クセハ本號ニ於テ特ニ教唆ノ規定ヲ設ケサルモ總則ニ照シテ優ニ其教唆者ヲ首魁ト同一ノ責ニ任セシムルコトヲ得ルナリ此ノ如ク何レノ方面ヨリ觀察スルモ本條ニ於テ教唆者ヲシテ或ハ實行者ト同一ノ責ヲ負ハシメ或ハ實行者以上ノ責ヲ負ハシムヘシトノ規定ハ到底之ヲ解スル能ハサルナリ予ハ寧ロ教唆者ノ規則ヲ省キ總則ニ照シテ處斷スルノ優レルニ如カスト信ス改正案ニ於テモ亦此主義ヲ採リ教唆者ニ關スル規定ヲ省キタリ(刑法改正案第九二條參看)

二　群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期徒刑ニ處シ云云

(イ)　群衆ノ指揮　茲ニ所謂群衆ノ指揮トハ其意義明瞭ヲ缺クコト甚シ十人ノ群衆ニ長タルモ群衆ノ指揮ナリ百人千人ノ群衆ニ長タルモ群衆ノ指揮タリ萬人十萬人ノ群衆ニ長タルモ是レ亦群衆ノ指揮タリ刑法ハ其群衆ノ如何ナル定數ニ達シタル場合ヲ以テ本條ノ規定ニ當ルモノト爲スカ伍長ト小隊長ト其責任同一ナラス大隊長ト聯隊長ト其責同シキモノニ非サルナリ然ルニ本條ハ伍長ノ責任ト聯隊長トノ責任ヲシテ同一ト爲スノ惑ナキ能ハス予輩豈ニ群衆ノ指揮ノ意義ニ付テ正確ノ解釋ヲ爲スニ苦マサルヲ得ンヤ

(ロ)　其他樞要ノ職務　樞要ノ職務ハ是レ即チ内亂ノ實行ニ必要ナル總テノ樞要ナル職務ヲ謂フモノナレハ一一其職務ノ條目ヲ列擧スルコト能ハサルナリ然レトモ參謀ノ如キハ行兵ノ場合ニ於テ最モ必要ニシテ最モ樞要ナル者ナレハ其「樞要ノ職務」中ニ包含スヘキヤ勿論ナリ予ハ寧ロ群衆ヲ指揮シテ彈丸矢石ノ下ニ立ツ者ヨリモ帷幄ニ在リテ作戰計畫ノ任ニ當ル者ノ責任一層大ナルコトヲ信スル者ナリ是故ニ改正案ニ於テハ樞要ノ職務ヲ改メテ「謀議ニ參シ又ハ群衆ヲ指揮シタル者」ト爲シタリ

三　兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ云云　本號ニ所謂兵器金穀ヲ資給スル者ハ内亂ノ實行ニ與ラスシテ其實行幇助ヲ爲スニ過キサル者

ナレハ寧ロ內亂ノ從犯ヲ以テ之ヲ論スヘキナリ然ルニ特ニ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ノモノハ從犯ハ犯罪前ノ行爲ヲ以テ其犯罪ヲ幇助シタルニ因リテ成立スルモノニシテ犯罪ノ實行中又ハ犯罪後ニ於テ幇助ノ行爲ヲ爲スト雖モ從犯ヲ以テ論スルコトヲ得サルナリ故ニ若シ本號ノ規定ナカリセハ內亂前ニ於ケル兵器、金穀ノ資給ハ從犯トシテ之ヲ罰スルコトヲ得ルモ內亂ノ實行中若クハ實行後ニ於ケル資給ノ場合ハ之ヲ罰スルコト能ハサルニ至ル故ニ刑法ハ從犯ノ性質アル行爲ナルニ拘ハラス茲ニ之ヲ以テ一罪ナリトシテ罰セント欲セシナリ「其他諸般ノ職務」云フハ是レ亦到底一一列記シ得ヘキモノニ非ス當時ノ事實ニ依リテ之ヲ決スルノ外ナキナリ

四　敎唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ云云　本號ノ規定亦多少ノ批難ヲ免レス「敎唆ニ乘シテ附和隨行云云」トアリ然ラハ則チ敎唆ニ乘セスシテ附和隨行シタル者ハ本條ノ制裁ヲ受クルモノニ非サルヤ敎唆ニ乘スルコトヲ以テ附和隨行ノ條件ナリト爲サハ敎唆ニ乘セサル附和隨行ハ之ヲ罰スルコトヲ得サルヘシ故ニ本條ニ於ケル敎唆ニ乘スルノ一句ハ管ニ蛇足タルノミナラス却テ刑法ノ本旨ヲ失フノ弊害アリ

第一注意　刑法ハ內亂ノ目的ヲ以テスレハ軍用ノ物品ヲ竊取スルモ猶ホ內亂ヲ以テ之ヲ論スヘシト爲セリ第百二十二條ニ曰ク「內亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器、彈藥、船舶、金穀其他軍用ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ內亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ」ト軍用物品ハ戰爭ニ最モ必要ナル物ナリト雖モ之ヲ掠奪スル者ハ必スシモ戰爭ノ目的ニ出テサルコトアリ等シク强竊盜ニシテ其戰爭ニ出ツルトキハ國事犯タル名譽罪ト爲リ而シテ其目的戰爭ニ出テサルトキハ强竊盜ノ破廉耻罪ト爲ル此ノ如ク犯罪ノ性質ハ其目的ニ依リテ變更スヘキモノナリヤ予輩ハ甚タ疑ナキ能ハサルナリ茲ニ所謂兵器、彈藥、船舶、金穀ハ其所有者ノ何人タルコトヲ明言セサルカ故ニ或ハ官ノ所有ニ係ル物モアルヘシ又或ハ一箇人ノ所有ニ係ル物モアルヘシ鹿兒島事件ニ於テ私學校黨カ彈藥庫ヲ襲ヒタルハ是レ官ノ彈藥ヲ奪ヒタルナリ大阪事件ニ於テ其犯人等カ近鄕ノ豪家ヲ襲ヒテ金錢ヲ掠奪シタルハ一箇人ノ所有ニ係ル金穀ヲ奪ヒタルモノナリ官ノ彈藥庫ヲ襲撃シテ之ヲ奪掠シタルノ行爲ハ其目的明白ニ內亂ヲ起スニ在ルヲ以テ此所爲

ヲ以テ國事犯ト看做スコトヲ得ルモ村落ノ家ヲ襲ヒテ金穀ヲ强奪スルノ所爲ハ其目的ヲ知ルコト甚タ困難ニシテ之ヲ罰スルニ本條ノ刑ヲ以テセントスルモ殆ト其場合ナカルヘシ要スルニ本條ハ行爲上ノ國事犯ニ非スシテ目的上ノ國事犯ニ過キサルヲ以テ實際上常事犯トノ區別甚タ困難ナルヲ知ラサルヘカラス且内亂ノ目的ヲ以テ軍用ノ物品ヲ劫掠シタル行爲ハ内亂罪ニ依リテ之ヲ罰ストアルヲ以テ其他ノ場合即チ内亂ノ目的ヲ以テ家屋ニ放火シ船舶ヲ覆沒セシメタル者ハ内亂罪ヲ以テ之ヲ罰スヘカラサルヤ予ハ寧ロ本條ヲ刪除スルノ說ヲ主張スル者ナリ

第二注意　刑法ハ政府變亂ノ目的ニ出テタル謀殺罪ヲ以テ國事犯ナリト爲セリ第百二十三條ニ曰ク[政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧クルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス]ト本條モ亦犯人ノ目的ニ依リテ以テ犯罪ノ性質ヲ定メタルモノナリ然レトモ本條ハ内亂ノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ云云ト規定スルカ故ニ内亂ノ目的ヲ以テ人ヲ故殺シ若クハ毆打致死セシメタルトキハ必ス通常ノ條規ニ依リテ之ヲ論セサルヘカラサルナリ夫レ何故ニ謀殺ハ國事犯ト爲リ而シテ之ト目的ヲ同シウスル故殺毆打致死罪ハ却テ普通罪ト爲ルヤ此ノ如キ區別ヲ爲スノ理由果シテ何レノ處ニ在ルカ本條ニ於テハ人ヲ謀殺シタリトアリテ其何人ナルカヲ明言セサルカ故ニ苟モ内亂ノ目的ニ出テタル以上ハ閣臣ヲ殺スモ濫吏ヲ殺スモ豪農ヲ殺スモ乞食ヲ殺スモ常ニ國事犯ヲ以テ論セサルヘカラス内亂ノ目的ヲ以テ閣臣ヲ殺シタルトキハ國事犯ヲ以テ之ヲ論スルモ不可ナル所ナキカ如シト雖モ乞食ヲ殺シタル場合ニ於テ之ニ擬スルニ國事犯ノ刑罰ヲ以テスルハ刑法ノ趣意ニ反スルニ非サルナキヲ得シヤ是レ亦目的ヲ以テ犯罪ノ性質ヲ定ムルノ其理ニ當ラサルヲ知ルニ足レリ

第三注意　第百二十八條ニ於テ内亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ニ付テハ通常ノ刑ヲ以テ之ヲ論スヘキコトヲ規定セリ既ニ人ノ身體財產ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪アルコトヲ知ラハ則チ人ノ身體財產ニ對シ内亂ノ目的ニ關スル重罪輕罪アルコトヲ知ラサルヘカラス内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ハ常事犯ヲ以テ之ヲ論シ内亂

ノ目的ニ關スル重罪輕罪ハ國事犯ヲ以テ之ヲ論スルナリ是ニ於テカ內亂ノ目的ニ關スル重罪輕罪ト其然ラサルモノトノ區別ヲ爲スノ必要アリ(一)內亂ニ際シ內亂ノ目的即チ朝憲ヲ紊亂スルニ必要ナル行爲ナリトシテ之ヲ行ヒタルトキハ縱令人ノ身體財產ニ對シテ殺害ヲ加フルコトアルモ是レ特別ノ重罪輕罪ヲ構成スルモノニ非スシテ其犯罪ハ事ロ國事犯即チ內亂行爲ヲ構成スルノ要素タルニ過キサルナリ故ニ身體財產ニ對シテ如何ナル犯罪ヲ行フモ悉ク內亂行爲中ニ吸收セラルルモノナリ之ニ反シ人ノ身體財產ニ對シテ朝憲紊亂ノ目的ニ必要ナラサル犯罪ヲ行ヒタルトキハ其身體財產ニ對スル犯罪ハ內亂中ニ包含セラルルモノニ非ス要スルニ本條ニ所謂內亂ノ目的ニ關セサルトハ即チ朝憲紊亂ニ必要ナラサルトノ意義ナリト解釋スレハ可ナリ

或人曰ク內亂ノ目的ニ必要ナラサル犯罪ハ常事犯トシテ之ヲ罰シ內亂ノ目的ニ必要ナル犯罪ハ國事犯トシテ之ヲ罰ストセリ然ラハ則チ第百二十二條及ヒ第百二十三條ニ規定スル所ノ犯罪ハ皆內亂ノ目的ニ必要ナル犯罪ナルヲ以テ別ニ此二條ヲ設ケサルモ尙ホ內亂罪ヲ以テ罰スヘキニ似タリ第百二十二條及ヒ第百二十三條ノ規則ハ本條ノ規則ト重複スルニ非サルカト曰ク然ラス此二條ハ內亂ニ至ラサル前ニ於テ行ヒタル劫掠又ハ謀殺ノ罪ヲ罰スルニ在リ第百二十八條ハ內亂ニ乘シテ內亂ノ目的ニ必要ナラサル犯罪ヲ罰スルノ規定ナリ故ニ內亂ニ乘シテ內亂ノ目的ニ必要ナル犯罪ヲ行ヒタルトキハ本條ノ反對解釋トシテ內亂罪ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得ヘシト雖モ內亂ニ乘セスシテ內亂ノ目的ニ必要ナル犯罪ヲ行ヒタルトキハ第百二十二條及ヒ第百二十三條ノ場合ノ外ハ國事犯ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サルナリ故ニ本條ノ規定ハ第百二十二條及ヒ第百二十三條ノ規定ト毫モ重複スル所ナシ

第四注意　內亂ノ實行ニ關スル罪ハ未遂ノ場合ト雖モ尙ホ本刑ヲ科スヘシ第百二十四條ノ規定スル所ナリ內亂ノ未遂罪ニ付テハ何故ニ此ノ如ク特別ノ刑罰ヲ科スヘシトセシカ蓋シ內亂罪ハ其性質國家ノ基礎ヲ破壞セントスルニ在リテ未遂罪ノ場合ト雖モ國家ノ危害ヲ爲スコト既遂ノ場合ト異ナル所ナシト謂フヲ以テ科スルニ既遂ノ刑ヲ以テシタルナリ

第二項　內亂ノ豫備、陰謀

(一)　內亂ノ豫備トハ何ソヤ第百二十五條之カ規定ヲ爲シテ曰ク「兵隊ヲ招募シ又ハ兵器、金穀ヲ準備シ其他內亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス」下刑法ニ於テ犯罪ノ豫備ヲ罰スル場合甚タ稀ナリ唯其豫備行爲ニシテ社會ノ危害ヲ爲スノ性質ヲ有スルトキニ限リ之ヲ禁制スルノ必要アリ國事犯ハ其性質極メテ危險ニシテ其影響スル所モ亦廣キカ故ニ其既ニ發生スルニ及ヒテ之ヲ罰スルハ事既ニ遲シ其未タ發生セサルニ於テ宜シク之ヲ防禦スヘキナリ是レ刑法ニ於テ內亂罪ノ豫備ヲ罰スル第一ノ理由ナリ若シ其豫備行爲ニシテ危害ノ性質ヲ有セサランカ毫モ之ヲ罰スルノ必要ヲ認メサルナリ然ルニ內亂罪ノ豫備ハ或ハ兵隊ヲ招募スルニ在リ或ハ兵器、金穀ヲ徵募スルニ在リテ豫備行爲其モノニ於テ既ニ國家ノ安寧ヲ害スルニ足ルヘキモノアリ民心ヲ驚怖セシメ地方ヲ騷擾セシムルニ足ルナリ此ノ如キ性質ヲ有スル行爲ハ法律ニ於テ當然之ヲ禁制スルノ必要アリ即チ豫備行爲其モノニ於テ既ニ危害ノ性質ヲ有スルモノナリ是レ刑法ニ於テ內亂ノ豫備行爲ヲ罰スルニ至リタル第二ノ理由ナリ尙ホ茲ニ注意スヘキモノハ其名ハ內亂ノ豫備行爲ヲ罰スト謂フト雖モ其實ハ即チ此豫備行爲ヲ以テ一種獨立ノ犯罪ナリト認メタルニ過キス是ニ於テカ左ノ結果ヲ生ス

第一結果　內亂ノ豫備罪トシテ之ヲ罰ストスルトキハ即チ犯罪ノ豫備ハ犯罪ノ著手以前ノ行爲ニ係ルヲ以テ本條ノ罪ニハ未遂罪ナシト謂ハサルヲ得ス然レトモ本條ノ罪ヲ以テ獨立罪ナリトスレハ則チ其重罪ニ當ル所ノモノハ當然未遂罪ヲ構成スヘシ例ヘハ兵隊ヲ招募セントシテ招募ノ方法ニ著手シ又ハ兵器、金穀ヲ準備セントシテ之ニ著手シタル場合ノ如シ

第二結果　內亂ヲ幇助スルノ意思ヲ以テ此豫備ヲ爲シタル者アリ若シ從犯ノ規定ニ從フトキハ正犯ノ成立セサル限ハ從犯獨リ成立スヘキモノニ非サルヲ以テ決シテ之ヲ罰スヘキモノニ非サルナリ然レトモ本條ノ豫備行爲ハ之ヲ以テ獨立罪ナリト爲スカ故ニ縱令正犯ノ未タ成立セサルモ猶ホ之ヲ罰スルコトヲ得ルナリ

(二)　內亂ノ陰謀トハ何ソヤ　刑法ハ犯罪ノ意思ヲ罰スルモノニ非ス然ルニ內亂罪ニ付テハ陰謀ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタリ是レ或ハ犯罪ノ意思ヲ罰スルニ非サルカ陰謀ノ語ニ付テハ刑法上之カ定義ヲ下ササルヲ以テ其解釋頗ル困難ナリ然レトモ予ノ信スル所ヲ以テスレハ陰謀トハ內亂ヲ行ハントスルノ意思ヲ有スル者二人互ニ其意思ヲ交通シタル場合ヲ謂フナラン二人以上互ニ其意思ヲ交通スルトキハ其意思忽チ蔓延シテ無數ノ人ニ及フヲ以テ意思ノ交通ハ社會ノ爲メニ非常ノ危險アリ內亂其モノヨリ論スレハ未タ事實ト爲ラスシテ僅ニ發意ニ止マルカ如シト雖モ社會ヨリ之ヲ觀レハ內亂ヲ行フノ目的ヲ以テ之ヲ行フノ協議ヲ爲スコトハ既ニ社會ノ上ニ多少ノ危險ヲ及ホシタルモノナリ刑法ハ此危害ヲ禁制センコトヲ欲シテ特ニ豫謀ヲ以テ一ツノ犯罪行爲ナリト認メテ以テ茲ニ之ヲ規定シタルニ過キサルナリ故ニ若シ意思ノ交通ヲ爲サスシテ僅ニ此意思ヲ發表シタルニ過キサルトキハ陰謀罪ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サルナリ刑法ノ禁セント欲スル所ノモノハ意思ノ發表ニ在ラスシテ意思ノ交通ニ在ルナリ

第一注意　第百二十七條ニ於テ內亂ノ情ヲ知リテ犯人ニ集會所ヲ給與シタル行爲ヲ罰ス此規定果シテ必要ナルカ凡ソ犯罪ノ情ヲ知リ豫備行爲ヲ以テ犯罪ヲ幇助シタル者ハ從犯トシテ之ヲ罰スヘキハ第百九條ノ規定スル所ナリ今內亂ノ情ヲ知リテ此犯人ニ給與スルニ集會所ヲ以テシタル者ハ所謂罪ヲ犯スヲ知テ豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幇助シタル者ニ非サルナキカ若シ集會所ノ給與ハ即チ豫備ノ所爲ニ過キストスレハ則チ本條ヲ設ケスト雖モ十分ニ從犯ノ規則ニ照シテ之ヲ罰スルコトヲ得ルナリ然レトモ刑法ニ於テ本條ヲ設クルニ至リタルノ理由二アリ(一)從犯ノ構成ニハ必ス正犯ノ成立スルコトヲ要ス故ニ正犯ノ成立ナキトキハ從犯獨リ成立スヘキモノニ非サルナリ然ルニ本條ノ犯罪ハ唯內亂ノ情ヲ知ルコト及ヒ集會所ヲ給與スルニ依リテ成立スルモノニシテ別ニ正犯ヲ幇助スルノ條件ヲ要セサルナリ(二)集會所ノ給與ハ或ハ內亂以前ニ於テスルコトアリ或ハ內亂中ニ於テスルコトアリ內亂前ニ於テスル行爲ハ或ハ從犯タルヘシト雖モ內亂中ニ於テスル行爲ハ到底從犯ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サルナリ

第二注意　豫備陰謀ノ自首者ハ本刑ヲ免シテ嚴監視ニ付ス是レ第百二十六條ノ規定スル所ナリ蓋シ刑法カ豫備陰謀ヲ罰スル所以ノモノハ内亂ヲ未發ニ豫防セント欲スルノ趣意ニ外ナラス故ニ豫備陰謀ノ行爲ハ危險ナリト云フト雖モ其未タ事ヲ行ハサル前ニ於テ自首スルニ至レハ則チ内亂ハ既ニ十分ニ之ヲ防禦スルコトヲ得タルカ故ニ必スシモ此豫備陰謀ヲ罰スルノ必要ナキナリ特ニ刑法ハ豫備陰謀ノ發覺ヲ容易ニスルノ必要アルカ故ニ犯人ヲ奬勵シテ自首ノ途ヲ取ラシムルハ内亂ノ發生ヲ豫防スルノ良策ナリ

第二款　外患ニ關スル罪

外患罪トハ外國トノ關係ニ於テ内國ノ獨立ヲ侵害セントスル性質ヲ有スル犯罪ヲ謂フ内亂罪モ亦外患罪モ一國ノ安寧ヲ害スルニ至リタハ共ニ同一ナリト雖モ其性質ニ於テハ二者大ニ異ナレリ内亂罪ハ一國ノ内部ニ於テ其國體、政體ヲ紊亂セントスルニ在リ外患罪ハ一國ノ外部ニ對シテ其獨立權ヲ失ハシムントスルモノナリ

方ハ舉證者カ自ラ申出タタル人證ヲ拋棄シタル後ニ於テ更ニ同一證人ノ訊問ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ爲メニ訴訟ノ遲延ヲ來ス虞アルノミナラス尚ホ其證人ハ前ニ爲シタル證言ヲ變更スルヤモ計リ難ケレハナリ又舉證者カ申出テタル人證ヲ有效ニ拋棄シタルトキト雖モ相手方ハ更ニ自ラ同一ノ人證ヲ申出ツルコトヲ得ヘキカ故ニ證人ノ出頭シタル場合ニ於テハ直チニ其訊問ヲ求ムルコトヲ得ルハ疑ナカルヘシ

舉證者カ第一審ニ於テ一旦拋棄シタル證人ハ第二審ニ於テ更ニ其訊問ノ申出ヲ爲スコトヲ得ルハ第四百十五條ノ規定ニ依リテ推知スルコトヲ得ヘシ終ニ證人ハ訊問期日ノ終リタル後直チニ旅費日當ノ拂渡ヲ請求スル權アルコト又其支拂ノ爲メニ舉證者カ第二百八十八條ノ規定ニ依リ豫納シタル金額ノ不足スルトキハ裁判所ノ職權ヲ以テ其不足額ヲ取立ツヘキコトハ第三百二十一條ニ規定スル所ノ如シ

尚ホ茲ニ附言スヘキハ舊民法證據編第六十條ニ依レハ法律行爲ヨリ生スル利益カ金額五十圓ヲ超過スルトキハ人證ニ依リテ之ヲ證スルヲ許サヽルヲ原則

トセリ然レトモ今日ノ法律ニ於テハ斯ル制限ナシ唯民事訴訟法ノ規定中證書訴訟(爲替訴訟ニ於テ人證ヲ許サザルノ特例アルノミ(第四八四條、第四八七條、第四九四條參照)

第二項　鑑定

鑑定トハ係爭事實ニ付キ特別ノ智識ヲ有スル第三者カ陳述スル意見ヲ謂フ而シテ擧證者ハ之ヲ以テ證據方法ト爲スコトヲ得故ニ鑑定人ト爲ルニハ證人ニ於ケルト同シク當事者ニ非サル第三者タルヲ要ス然レトモ鑑定人ハ證人ノ如ク自己ノ實驗シタル過去ノ事實ヲ單ニ其記憶ニ依リテ陳述スルモノニ非スシテ特別ノ智能ニ依リ現在ノ事實ニ付キ自家ノ意見ヲ以テ判斷ヲ下スモノナリ是レ即チ證人ト鑑定人トノ性質上ノ差異ナリ凡ソ係爭ノ事實ニシテ先ツ其異否ヲ知ルニ非サレハ判決ヲ下スコト能ハサルモノハ必ス裁判所ニ於テ之カ判斷ヲ下サザルヘカラス若シ其異否ノ判斷ニ付テ特別專門ノ智識ヲ要スル場合ニ於テ偶〻裁判官カ之ヲ判斷スルニ足レル智識ヲ有スルトキハ固ヨリ鑑定ノ必要ナシト雖モ然ラサルトキハ其智識ヲ有スル者ヲ鑑定人トシテ意見ヲ陳述セシメ判斷ヲ爲スノ參考ニ供スルノ必要アリ即チ此場合ニ於テハ裁判官ハ係爭事實ノ判斷ニ付キ鑑定人ヲシテ己ヲ補助セシムルコトヲ得ルモノトス

鑑定ハ證據方法ナルヤ否ヤノ點ニ付テハ學者間議論アル所ナリ或ハ鑑定人ハ證人ノ一種ニシテ鑑定ハ純粹ノ證據方法ナリト言フ者アリ其說ニ依レハ證人ハ其實驗シタル事實ヲ述ヘ鑑定人ハ其意見ヲ述フルノ差異アルノミニシテ其陳述カ同シク第三者ノ陳述トシテ係爭事實ヲ證明スルノ材料ト爲ル點ニ亞リテハ毫モ相異ナルコトナシ故ニ二者其性質ヲ同シウスルモノナリト或ハ其反對ニ鑑定人ハ裁判官ノ補助ヲ爲ス者ニ過キスシテ其意見ヲ陳述セシムルハ證據方法ニ非スト說ク者アリ或ハ又鑑定ハ裁判官ノ判斷ノ補助タルト證據タルトノ二性質ヲ併有スルモノナリト論スル者アリ或ハ又裁判所ノ職權ヲ以テ命スル鑑定ハ裁判官ノ判斷ノ補助ニシテ擧證者ノ申立ニ依ル鑑定ハ證據方法ナリト唱フル者アリ今我民事訴訟法總則第百十七條ニ依レハ裁判所ハ職權ヲ以テ鑑定ヲ命スルコトヲ得即チ裁判官ハ自己ノ智識ノミヲ以テハ係爭事實ノ眞

否ニ付キ判斷ヲ下シ難キ場合ニ當事者ノ申立ヲ待タスシテ鑑定人ヲ任命シ鑑定ヲ爲サシメ之ヲ參考ニ供スルコトヲ得ルモノナリ此點ヨリ觀レハ固ヨリ鑑定人ハ裁判官ノ判斷ノ補助ヲ爲ス者ト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ又他ノ方面ヨリ觀察スレハ法律ハ鑑定ヲ證據方法中ニ列シテ之ニ特別ナル規定ノ外ハ人證ノ規定ヲ準用スルコトトシ尙ホ第三百二十三條ヲ以テ鑑定ノ申出ヲ當事者ニ許セリ而シテ其鑑定ノ結果ヲ信用スルト否トハ一ニ裁判官ノ心證如何ニ依リテ定マルモノナリト雖モ是レ總テノ證據方法ニ於テ同樣ノコトニシテ若シ裁判所カ鑑定ヲ正當ナリト認ムルトキハ其係爭事實ノ證明材料タルコト勿論ナリ故ニ擧證者ハ自己ノ主張スル事實ヲ證明スル爲メニ鑑定ノ申出ヲ爲シ其結果利益ナル判斷ヲ受クルコトヲ得ルモノナリ此點ヨリ觀レハ鑑定ノ申出ハ一ノ證據方法ナリト謂フモ決シテ不可ナシト信ス或ハ當事者カ鑑定ノ申出ヲ爲スモ裁判所ニ於テ其必要ナシトスルトキハ之ヲ命スルニ及ハサルコト其他鑑定人ノ選定、其員數ノ指定ハ裁判所ニ於テ爲スコト又裁判所ハ職權ヲ以テ鑑定再鑑定ヲ命スルコトヲ得ルコト等ノ規定アルヲ以テ鑑定ヲ證據方法ニ非ス

トスルノ論據トスル者アレトモ凡ソ必要ナラサル證據ハ裁判所ニ於テ取調フルニ及ハサルコトハ何レノ證據ニ於ケルモ同一ニシテ唯リ鑑定ニ限ラス又法律カ鑑定人ノ選定ヲ裁判所ニ爲サシムルハ其裁判官ノ補助タルカ故ノミニ非ス又鑑定ヲ證據方法ニ非スト爲シタルカ故ニ非スシテ要スルニ鑑定人ハ特別ノ智識ヲ具有スルヲ必要トスルヲ以テ其選定ヲ當事者ニ一任スルヨリモ通常之ヲ受訴裁判所ニ爲サシムルヲ適當ナリト認メタルニ由ル其員數ヲ定ムルカ如キモ亦右ト牽連スル事項ナルノミナラス既ニ證據調ノ限度ハ裁判所ニ於テ定ムヘキノ原則アル以上ハ初ヨリ裁判所ヲシテ之ヲ定メシムルモ敢テ怪ムヘキコトニ非サルナリ然ラハ即チ右ノ規定ハ未タ鑑定ヲ以テ證據方法ニ非ストスル憑據ト爲スニ足ラス況ヤ當事者ハ別ニ合意ヲ以テ鑑定人ヲ定ムルコトヲ得而シテ裁判所ハ其合意ニ從ハサルヘカラサルノ規定アリテ常ニ鑑定人ハ裁判所ノ選定スルモノニ非サルニ於テヲヤ又裁判所カ職權ヲ以テ命スルコトヲ得ルハ唯リ鑑定ノミニ限ラスシテ檢證及ヒ本人訊問ニ於ケルモ亦同シ尙ホ又裁判所カ再鑑定ヲ命スルコトヲ得ル規定ノ如キモ鑑定ノミニ限レルモノニ非

スシテ證人ノ再訊問モ亦裁判所ノ必要ト認メタルトキハ常ニ之ヲ命スルコトヲ得要スルニ右等ノ規定ハ鑑定ヲシテ證據方法タルノ性質ヲ失ハシムルニ足ラサルノミナラス却テ他ノ證據方法ニモ共通ノモノアリ蓋シ鑑定ヲ以テ單純ノ證據方法ナリト謂ヒ又ハ證據方法ノ性質ヲ有セスシテ單ニ裁判官ノ判斷ノ補助タルニ過キスト爲スハ各、觀察ノ點ヲ異ニシタル結論ニシテ此二ノ觀念ハ決シテ相容レサルモノニ非ス裁判官カ事實ノ判斷ヲ爲スニ際シ鑑定人ノ鑑定ヲ參考トシ己ノ智識ヲ補足スル點ヨリ觀レハ即チ鑑定ハ裁判官ノ判斷ノ補助タルモノト謂フヲ得ヘク又擧證者カ鑑定ノ申出ヲ爲シ鑑定人ノ鑑定ヲ援用シテ自己ノ主張スル事實ヲ證明スルノ具ト爲ス點ヨリ觀レハ之ヲ一ノ證據方法ト謂フヘキコト疑ナカルヘシ故ニ其一ニ偏スルハ共ニ中庸ヲ得スシテ此二性質ノ併存ヲ認ムルハ敢テ不當ニ非サルナリ

鑑定ニ付テハ特別ノ規定ナキ限ハ人證ノ規定ヲ準用スヘキモノナリ(第三二二條)

鑑定ニ關スル特別ノ規定ヲ擧クレハ左ノ如シ

(一)　鑑定人ト爲ルヘキ義務ハ證人ノ義務ト同シク公ノ義務ナリト雖モ證人ニ於ケルカ如ク一般人民ニ及ホサスシテ或特定ノ者ニノミ之ヲ負ハシム蓋シ證人ハ其實驗シタル過去ノ事實ヲ陳述スヘキモノニシテ他人ヲシテ之ニ代ラシムルコトヲ得ス隨テ此實驗アル者ハ其智識ノ如何ヲ問ハス何人ニ限ラス證言ノ義務アリトスルハ當然ナリ然レトモ鑑定ニ至リテハ特別ノ智能ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ總テノ人民ニ鑑定ノ義務ヲ負ハシムルノ必要ナシ隨テ其義務ヲ負フ者ヲ限定スルノ規定ヲ生スルハ自然ノ理ナリ即チ法律上鑑定ノ義務アリトシテ第三百二十六條ニ掲ケラレタル者ハ左ノ如シ

(イ)　必要ナル種類ノ鑑定ヲ爲ス爲メニ公ニ任命セラレタル者

(ロ)　鑑定ヲ爲スニ必要ナル學術、技藝若クハ職業ニ常ニ從事スル者又ハ學術、技藝若クハ職業ニ從事スル爲メニ公ニ任命セラレ若クハ授權セラレタル者

(ハ)　前二項ニ屬セサル者ニシテ裁判所ニ於テ鑑定ヲ爲スヘキ旨ヲ述ヘタル者

(二) 鑑定人ト爲ルヘキ義務アル者カ其義務ニ違背シタルトキハ裁判所ハ之ニ對シ費用ノ賠償ト罰金ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルモ之ヲ拘引スルコトヲ得ス(第三二八條)勿論鑑定ノ義務ヲ有スル者ハ證人ト同樣出頭ノ義務ト鑑定ノ義務トヲ負フモノナリ其他鑑定人ノ出頭義務ノ免除、鑑定ノ拒絶ニ付テハ人證ノ規定ヲ準用スヘキモノナリ

(三) 官吏、公吏ハ其所屬廳ニ於テ異議アルトキハ鑑定人トシテ訊問スルコトヲ得ス(第三二七條第二項)此規定アル所以ハ要スルニ官廳公署ノ事務ニ差支ヲ生スルコト又時トシテハ鑑定ノ結果其信用ヲ傷害スルコトアルヲ慮リタルモノニシテ尙ホ又鑑定人ハ證人ト異ナリ通常一旦選定シタル者ニ其他ノ人ヲ以テ代フルコトヲ得ルカ故ナリ此他官吏、公吏カ鑑定人トシテ其職務上ノ祕密ニ涉ル事項ヲ陳述セサルヘカラサルトキハ所屬廳ノ許可ヲ求メサルヘカラサルハ勿論ナリ

(四) 鑑定ノ申出ハ鑑定スヘキ事項ヲ表示シテ爲スヘキモノナリ(第三二三條)鑑定ノ申出ニ鑑定事項ノ表示ヲ要ストハ鑑定ニ特別ナル規定ニ非スシテ人證申出ニ關スル規定ノ一部ノ準用ヲ示スニ過キサルモノノ如クナレトモ茲ニハ人證ノ申出ヲ爲スニ付キ證人ヲ指名スルコトヲ要スルニ反シ單ニ鑑定事項ノ表示ノミヲ以テ足レリトスルノ意ヲ示シタルモノナリ即チ鑑定人ノ選定ハ原則トシテ裁判所ノ職權ニ屬スルヲ以テノ故ナリ

(五) 鑑定人ノ選定及ヒ其員數ノ指定ハ受訴裁判所ノ職權ヲ以テ鑑定ヲ命スルト當事者ノ申立ニ因リテ之ヲ命スルトヲ問ハス受訴裁判所ニ於テ爲スヲ原則トシ其員數ハ一人ニマテ制限スルコトヲ得又受訴裁判所ハ何時ニテモ一旦選定シタル鑑定人ヲ他ノ者ニ代フルコトヲ得(第三二四條第一項)

(六) 裁判所ハ適當ナル鑑定人ヲ指名スヘキコトヲ當事者ニ催告スルコトヲ得(第三二四條第二項)但當事者カ其催告ニ從ヒ鑑定人ヲ指名シタルトキト雖モ裁判所ハ之ニ羈束セラレ必ス其者ヲ任命セサルヘカラサルニ非ス故ニ他ニ適當ナル者ヲ發見シタルトキハ之ヲ任命スルコトヲ得ヘキモノナリ

(七) 當事者ノ合意ヲ以テ鑑定人ヲ定メタルトキハ裁判所ハ其合意ニ從ヒ之ヲ鑑定人ト爲スヘク此場合ニ於テハ裁判所ハ唯其員數ヲ制限シテ選定セシムル

コトヲ得ルニ過キス(第三二四條第三項)但鑑定ノ必要ノ有無ヲ判斷スルハ固ヨリ裁判所ノ職權内ニ屬シ裁判所カ初ヨリ鑑定ノ必要ナシトスルトキハ合意上ノ鑑定人ノ選定ヲ生スルコトナシ又裁判所ハ當事者ノ合意ヲ以テ選定シタル鑑定人ヲ訊問シタル後尚ホ其鑑定ノ結果ヲ不十分ナリト思料シタルトキハ他ノ鑑定人ヲ選定シテ更ニ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ

(八) 外國ノ書類又ハ產物ノ審査ニ付テ必要ナル能力ヲ有スル本邦人ノ在ラサルトキハ外國人ヲ鑑定人ニ任命スルコトヲ得(第三二五條)

(九) 鑑定人ハ鑑定ヲ爲ス前ニ鑑定人タル義務ヲ公平且誠實ニ遂行スヘキ旨ノ宣誓ヲ爲ササルヘカラス(第三二九條)是レ證人ノ證言ト同樣鑑定ヲシテ信用アラシメンカ爲メナリ但茲ニ注意スヘキ點ハ證人ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スヘキ者アリ又之ニ宣誓ヲ爲サシムヘキ場合ニ於テモ證言ノ前又ハ後ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得レトモ鑑定人ニハ常ニ鑑定ノ前ニ於テ宣誓ヲ爲サシメサルヘカラサルコト是ナリ故ニ宣誓ヲ爲サシムルコト能ハサル者ハ勿論鑑定人ニ任命スルコトヲ得サルヘシ

(一〇) 鑑定人ノ意見ハ口頭ヲ以テ陳述セシムヘキヤ又ハ書面ヲ以テ述ヘシムヘキヤノコト數名ノ鑑定人アリテ之ニ鑑定書ヲ作ラシムヘキ場合ニ於テ各意見ノ異ナルトキハ共同評議シテ鑑定書ヲ作ラシムヘキヤ又ハ各別ノ鑑定書ヲ作ラシムヘキヤノコト鑑定人ノ一名又ハ總員ヲシテ口頭辯論ノ際鑑定書ヲ說明セシムヘキヤ否ヤノコト鑑定ノ結果カ不十分ナルトキハ同一鑑定人又ハ他ノ鑑定人ヲシテ再ヒ鑑定ヲ爲サシムヘキヤ否ヤノコト等ハ一ニ受訴裁判所ノ意見ヲ以テ定ムヘキモノトス(第三三〇條)

(二) 受訴裁判所ハ適當ナル場合ニ於テハ鑑定人ノ任命ヲ受命判事又ハ受託判事ニ委任スルコトヲ得而シテ此場合ニ於テハ受命判事受託判事ハ第三百二十四條第三百三十條第二號第二號ノ規定ニ依リ受訴裁判所ニ屬スル權利ヲ有ス(第三三一條)

(三) 鑑定人ハ日當旅費並ニ立替金ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得(第三三二條)是レ亦證人ニ關スル規定ト殆ト同一ナルモ鑑定人ハ鑑定ニ關シ特別ノ費用ヲ要スル際之ヲ立替フルコトナルヲ以テ此立替金ヲモ請求シ得ヘキコトヲ規定シタ

ルナリ其請求權ノ實行、豫納金不足額ノ取立ニ付テハ第三百二十一條ノ規定ヲ準用スヘキモノナリ

右ノ外證人ニ關スル規定中鑑定ノ規定ニ抵觸セサルモノハ皆鑑定ニ準用スヘキモノナリ例ヘハ呼出ノ方式、罰金及ヒ費用賠償ノ言渡並ニ其裁判ノ取消、出頭義務ノ免除、證言拒絶ノ原因及ヒ其手續、忌避申請ニ付テノ裁判、訊問ノ方法、再訊問、受命判事又ハ受託判事ノ權利、人證ノ拋棄等ニ關スル規定ノ如キ是ナリ

終ニ鑑定的證人ニ付テ一言セン即チ第三百三十三條ノ規定ニ依レハ特別ノ智識ヲ以テ或事實又ハ情況ヲ實驗シタル者ヲ其實驗シタル事項ニ付テ訊問スル場合ニハ人證ノ規定ヲ全然適用スヘキモノトス學者之ヲ通常ノ證人ト區別スル爲メニ鑑定的證人ト稱スルモ其實質ニ至リテハ通常ノ證人ト毫モ異ナルコトナク其過去ノ實驗ヲ證言スヘキモノニシテ鑑定人ノ如ク現在ノ事實ニ付キ自己ノ判斷ヲ以テ意見ヲ述フルモノニ非ス唯通常ノ證人ト異ナル點ハ其實驗ニ付テ特別ノ智識ヲ用ヒタルニ在リ例ヘハ人畜ノ疾病ヲ檢案シタル者ニ其疾病ノ有無又ハ模樣等其者ノ智識ヲ以テ實驗シタル過去ノ事實ヲ訊問スル場合ノ如シ故ニ現ニ人畜ノ疾病ノ有無、模樣等ヲ審査、鑑定スル場合トハ全ク異ニシテ他ノ人ヲシテ之ニ代ラシムルコトヲ得ス是レ右ノ規定アル所以ナリ

第三項　書證

書證トハ總テノ文書ヲ以テ係爭事實ヲ證明スル證據方法ナリ故ニ其證明ノ材料タル文書ヲ證書ト謂フ證書ノ性質、種類及ヒ其效力ニ付テハ現行法ニ詳細ノ規定ヲ缺ケトモ凡ソ係爭事實ヲ證明スルニ足ルヘキ文書ハ其差出人ノ署名捺印アルモノニ限ラス又初ヨリ或法律行爲ヲ認證スルノ目的ヲ以テ作成シタルモノニ限ラス帳簿若クハ書翰ノ如キ署名捺印ナキモノ又ハ偶然作成シタルモノト雖モ之ヲ證據トシテ利用スルコトヲ得ヘキモノナリ然レトモ證書ニ公正證書ト私署證書トノ別アルハ我民事訴訟法ニ於テモ認ムル所ナリ公正證書トハ官吏、公吏カ其職務上法律ノ規定スル方式ニ從ヒテ作リタル證書ヲ謂ヒ其他ノ證書ヲ私署證書ト謂フ勿論公正證書タルト私署證書タルトノ別ハ其實質上

ノ證據力ノ有無ニ何等ノ關係ナク苟モ係爭事實ノ眞否ヲ證スルニ足ルヘキ證書ニシテ眞正ノモノト認メラレタルモノハ其公正證書タルト私署證書タルトヲ問ハス又私署證書ハ其署名捺印アルト否トヲ問ハス何レモ皆證據タルノ效力ヲ保有シ裁判官ハ之ニ依リテ其事實ノ眞否ヲ判斷スルコトヲ得ヘシ唯其形式上ノ效力ニ至リテハ二者ノ間ニ差別アルコトハ民事訴訟法ノ規定ニ於テモ之ヲ認メタリ即チ若シ其眞否ニ付キ爭ヲ生シタルトキハ公正證書ニ在リテハ其公正證書タル形式ヲ具備スル以上ハ先ツ以テ眞正ノモノト看做サレ之ヲ否認スル者ニ於テ其僞造變造タルコトヲ立證スルノ責アリ之ニ反シテ私署證書ノ否認セラレタルトキハ之ヲ證據トシテ利用セントスル者ニ於テ其眞正ナルコトヲ證明セサルヘカラス是レ第三百五十一條以下ノ規定ニ依リテ自ラ推知スルコトヲ得ヘキナリ

第一則　書證申出ノ方法

書證申出ノ方式ハ場合ニ從ヒテ同シカラス左ニ之ヲ説明セン

第一　擧證者カ自ラ證書ヲ所持スル場合　此場合ニハ擧證者ハ其所持ノ證書ヲ口頭辯論ニ於テ受訴裁判所ニ提出シ裁判官及ヒ相手方ノ閲覽ニ供スヘキモノナリ(第三三四條但例外トシテ若シ口頭辯論ノ際ニ證書ヲ提出スルニ於テハ其毀損若クハ紛失ノ虞アルトキ其他著シキ障碍アルトキ例ヘハ官廳公署ノ簿冊又ハ商業帳簿ノ如キ其提出ニ因リ業務ノ執行ニ支障ヲ生スルトキノ如キハ之ヲ受訴裁判所ニ提出セスシテ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ提出スルノ命令ヲ求ムルコトヲ得(第三四八條第一項)

口頭辯論ニ於テ擧證者カ直チニ證書ヲ提出シテ書證ノ申出ヲ爲ストキハ恰モ證人ヲ同伴シテ人證ノ申出ヲ爲シタル場合ト同シク別段ニ證據決定ヲ爲スヲ要セス直チニ其證據調ヲ爲スコトヲ得レトモ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ證書ヲ提出スヘキ命令ヲ求メテ書證ノ申出ヲ爲シタルトキハ第二百七十四條第二項ノ規定ニ從ヒ證據決定ヲ以テ之ヲ命セサルヘカラス而シテ此命令ニ依リテ擧證者カ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ證書ヲ提出シタルトキハ受命判事又ハ受託判事ハ其手續情況ニ付テ書記ニ調書ヲ作ラシメ且其證書ノ謄本

及ヒ明細書ヲ作ラシメ調書ト共ニ之ヲ受訴裁判所ニ送付セサルヘカラス若シ證書ノ全部カ必要ナラスシテ其一部ノミカ必要ナルトキハ第百七條第二項モ從ヒテ作リタル證書ノ抄本ヲ證書ニ添附スルヲ以テ足レリトス(第三四八條第二項)

證書ノ提出ハ必ス原本ヲ以テ爲スヘキモノナルヤ否ヤ原本ノ提出ハ私署證書ニ限リ原則トシテ之ヲ必要トス公正證書ニ至リテハ之ト異ナリ其原本ハ官吏又ハ公吏ノ手元ニ保存スヘキモノニシテ當事者ハ自ラ之ヲ提出スルコトヲ得ス故ニ其官吏又ハ公吏ヨリ正本又ハ認證謄本ノ交付ヲ受ケテ之ヲ提出スレハ足レリ但舉證者カ認證謄本ヲ提出シタルトキ裁判所ニ於テ必要アリト認メタルトキハ其正本ノ提出ヲ命スルコトヲ得蓋シ正本ハ最モ信用ヲ置クヘキモノニシテ而モ當事者ニ於テ之ヲ提出スルコトノ難カラサルモノナレハ裁判所ノ意見ニ從ヒテ之ヲ提出セシムルハ決シテ不當ノコトニ非ス故ニ例ヘハ認證謄本ニ付テ爭ヲ生シ裁判所ニ於テモ其眞僞ニ付キ疑ヲ生シタルトキハ正本ノ提出ヲ命シテ後其爭ニ付テノ判斷ヲ爲スヲ得ルモノトス又私署證書ハ原則トシ

合ニ於テハ豫審判事カ免訴ノ言渡ヲ爲スハ疑ナキモ(乙)ノ場合ニ於テモ豫審判事ハ免訴ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ此場合ニ於テハ豫審判事ハ免訴ノ言渡ヲ爲サスシテ必ス公判ニ付スルノ言渡ヲ爲ササルヘカラサルモノト信ス何トナレハ盜視及ヒ沒收ノ如キモ一種ノ處罰ナルカ故ニ豫審判事ハ其言渡ヲ爲スヲ得サルヲ以テナリ

免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス(第一六五條)又免訴ノ言渡ヲ爲スニハ事實上及ヒ法律上ノ理由ヲ付セサルヘカラス事實上ノ理由トハ犯罪ノ證憑十分ナラサルコト被告人カ其犯罪ニ付キ責任アルコトノ證憑十分ナラサルコト等ヲ謂ヒ法律上ノ理由トハ事實ハアリトスルモ公訴ノ時效ニ罹リタルコト又ハ事件カ罪ト爲ラサルコト等ヲ謂フモノニシテ其理由等ヲ明示セサルヘカラス(第一六九條第三項)

免訴ノ言渡確定シタルトキハ罪名ノ變更アルモ同一事件ニ付テハ再ヒ訴ヲ受クルコトナシ何トナレハ豫審決定モ確定シタルトキハ確定裁判ト謂フヲ得ヘケレハナリ(第一七五條第一項)

法律上ノ理由ニ基キタル免訴ノ言渡ハ一旦確定シタル以上ハ確乎動スヘカラサルモノナルモ事實上ノ理由ニ基キタル免訴ノ言渡即チ證憑十分ナラストノ理由ヲ以テ爲シタル免訴ノ言渡ハ新ナル證據アルトキハ再ヒ起訴スルコトヲ許スコトアリ新ナル證據トハ新ナル證人參考人書類ヲ發見シタルコトヲ謂ヒ又新ナル事實ト共ニ證人參考人其他ノ證憑ヲ發見スルコトヲ謂フ右第二ノ場合ニ於テハ前ニ訊問ヲ經タル證人ト雖モ其證言ノ異ナルトキハ新ナル證據ト謂フヲ得ヘシ新ナル證據ヲ發見シタルトキハ檢事ヨリ裁判所ニ再起訴ヲ許スノ決定アランコトヲ請求シ其決定ヲ待チテ起訴セサルヘカラス再起訴ヲ許スヘキヤ否ヤヲ決定スルハ受訴裁判所ノ職權ニ屬シ而シテ其決定ハ直チニ確定力ヲ有スルモノナリ(第一七五條第二項)

(三) 公判ニ付スル言渡　犯罪ノ證憑十分ナルトキハ其事件ヲ公判ニ付スルノ言渡ヲ爲スヘシ而シテ其事件重罪ナルトキハ地方裁判所ノ重罪公判ニ付スルノ言渡ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ被告人カ未タ勾留ヲ受ケサルトキハ新ニ勾留狀ヲ發スヘク又保釋又ハ責付ヲ許シタルトキハ之ヲ取消ササルヘカラス(第一六八條)其事件カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ナルトキハ地方裁判所ノ輕罪公判ニ付スルノ言渡ヲ爲ササルヘカラス此場合ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ナルトキハ新ニ勾留狀ヲ發スルコトヲ得ヘク又保釋責付ヲ許スコトヲ得ヘシ又罰金ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ナルトキハ勾留中ノ被告人ハ釋放セサルヘカラス(第一六七條)又其事件カ違警罪ナルカ又ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ輕罪ナルトキハ區裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ササルヘカラス(第一六六條)

豫審終結決定ニハ被告事件及ヒ被告人ノ住所身分職業氏名年齢等ヲ記載スルハ勿論犯罪ノ性質模樣證憑ノ十分ナルコト並ニ適用スヘキ法條等ヲ明示スルコトヲ要スヘシ(第一六九條第一七〇條)

豫審終結決定正本ハ速ニ檢事及ヒ被告人ニ送達セサルヘカラス(第一七一條)而シテ被告人ニ送達スヘキ重罪公判ニ付スル豫審終結決定正本ニハ其決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキコト並ニ其期間ヲ記載スルコトヲ要ス若シ此記載ヲ遺脱シタルトキハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ決定正本ノ送達アルマテ抗告期間ノ經過ヲ停止スルモノナリ(第一七三條)

以下豫審終結決定ニ對スル上訴ハ抗告ノ一アルノミニシテ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ檢事及ヒ被告人ナリトス(第一七二條)而シテ法律上抗告ヲ爲スコトヲ許シタル場合ハ左ノ二箇ノ場合ニ限レリ

(一)重罪公判ニ付スルノ言渡ニ對シテハ檢事又ハ被告人ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

故ニ輕罪公判ニ付シ又ハ區裁判所ニ移ス言渡ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ許サザルモノナリ何故ニ重罪公判ニ付スル言渡ニ對シテノミ抗告ヲ爲スコトヲ許シ其他ノ場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ許サザルカ是レ蓋シ豫審ハ公判ニ付スル一ノ準備手續ニ外ナラザルヲ以テ檢事及ヒ被告人ハ公判ニ至リ辯論ヲ爲スノ餘地アリ且公判ノ言渡ニ對シテモ亦上訴ヲ爲スノ途アルヲ以テ一般ニハ之ヲ許サスシテ事ノ重大ナル重罪事件ニ付テノミ抗告ヲ爲スコトヲ許シタルモノナリ

(二)免訴又ハ管轄違ノ言渡ニ對シテハ檢事ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

故ニ被告人ハ免訴又ハ管轄違ノ言渡ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス是レ蓋シ免訴又ハ管轄違ノ言渡ノ如キハ被告人ニ利益ナル言渡ト謂フコトヲ得ヘキモ不利益ノ言渡ト謂フコトヲ得サルヲ以テナリ然ラハ何故ニ檢事ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ許シタルカ其理由ハ免訴又ハ管轄違ノ言渡ニ對シ檢事ニ抗告ヲ爲スコトヲ許サザルモノトセハ縱令其言渡カ不當ナルコトアルモ之ヲ更正スルノ途ナクシテ其結果或ハ有罪者カ法網ヲ免レ或ハ徒ニ他ノ豫審判事ニ豫審ヲ爲サシムル不都合ヲ見ルニ至ルヘキヲ以テナリ

抗告ノ期間内及ヒ抗告中ハ豫審終結決定ノ執行ハ之ヲ停止セサルヘカラス何トナレハ其期間内又ハ抗告中ハ決定ノ未確定ナルカ故ニ其執行ヲ爲スコト能ハサルハ勿論ノコトナレハナリ然レトモ決定カ未確定ナルニ拘ハラス保釋及ヒ責付ヲ取消スヘキ言渡ハ其執行ヲ停止スルコトナシ即チ保釋及ヒ責付ヲ取消シテ直チニ拘留ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ蓋シ豫審判事ノ保釋及ヒ責付ヲ取消ス場合ニ於テハ其確定ヲ待タスシテ拘留ヲ爲スノ必要アリト法律上推定シタルモノナラン(第一七四條)

抗告ヲ爲スヘキ期間、方式、抗告ノ裁判ヲ爲スヘキ裁判所等ノ事ハ抗告ノ處ニ至リテ講述スヘシ

第四編　公判

第一章　通則

公判ノ手續ハ左ノ九節ニ區分シテ之ヲ講說スヘシ

第一節　受訴
第二節　對審裁判
第三節　口頭審理
第四節　公開
第五節　辯護權
第六節　審理前ノ手續
第七節　審理手續
第八節　裁判
第九節　審理後ノ手續（公判始末書）

第一節　受訴

事件カ裁判所ニ繫屬セルトキハ裁判所ハ之ヲ審判スルノ職權アリ又之ヲ審判スルノ義務アルモノナリ

然ラハ如何ナル原因ニ由リテ事件カ裁判所ニ繫屬スルヤト云フニ其原因三アリ即チ裁判所ハ左ノ三箇ノ場合ニ於テ公訴ヲ受理スルモノナリ

一　檢事ノ起訴アリタルトキ

二　豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移スノ裁判アリタルトキ

三　附帶ノ犯罪又ハ公廷内ノ犯罪アリタルトキ

第二節　對審裁判

公判ノ裁判ハ對審ナリ即チ原告官タル檢事ト被告人トヲシテ公廷ニ於テ辯論ヲ爲サシメタル上裁判ヲ爲スモノナリ此規則ハ唯リ被告人ノ私益ノ爲メナル

ノミナラス又併セテ社會公益ノ爲メナリトス何トナレハ裁判官ニ於テ親シク原被雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ盡スニ非サレハ事實ノ眞相ヲ發見スル能ハスシテ或ハ無辜ヲ罰シ或ハ罪人ヲシテ法網ヲ免レシムルコトナキヲ保スヘカラサレハナリ故ニ公判ニ於テハ檢事モ出廷シ被告人モ亦出廷スルモノナリ而シテ公廷ニ於テハ被告人ハ守卒ニ監護セラルルコトアルモ身體ニ拘束ヲ受クルコトナシ(第一七七條)加之被告人ハ辯護ノ爲メ辯護人又ハ補佐人ヲ用フルコトヲ得ルモノナリ

辯護人ハ重罪事件ニ付テハ法律上必ス之ヲ附セサルヘカラサルモ(第二三七條、第二六四條、第二七九條)輕罪以下ノ事件ニ付テハ裁判所又ハ被告人ノ意見ニ放任セリ

禁錮以上ノ事件ニ付テハ常ニ被告人自身ノ出頭ヲ要スヘキモ罰金以下ノ事件ニ付テハ被告人ハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘシ被告人又ハ其代人ノ出廷セサルトキハ裁判所ハ闕席判決ヲ爲スモノナルモ若シ被告人カ精神錯亂又ハ疾病ノ爲メ出廷スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ其全癒ニ至ルマテ事件ニシテ世傳御料ヲ基礎トシ(皇室典範第八章)國庫ヨリ定額ノ支給ヲ受ケ尚ホ不足ヲ告クル場合ニ於テ皇室費ニ增額ノ餘地ヲ有スルモノナリトス

皇室費ノ据置期間ニ付テハ亦各種ノ方法アリ第一ハ毎年度毎ニ之ヲ定ムルモノニシテ第二ハ當初一定ノ額ヲ定メ期限ヲ定メサルモノ第三ハ君主ノ一代ヲ限リテ定額ヲ供スルモノ第四ハ一定ノ期限ヲ定メテ定額ヲ供スルモノ第五ハ當初一代ノ額ヲ定メ增加ヲ要スル場合マテ据置クモノ是ナリ第五ハ我憲法第六十六條ニ規定スル所ニシテ其最モ事宜ヲ得タルモノナルハ言ヲ俟タサル所ナリ但明治二十七八年ノ戰役後國際間ノ交際其他恤救補助奬勵等ノ經費ノ增額ト物價ノ騰貴ニ伴ヒ皇室費ノ經費著シク增加セシモ御料財產ノ管理ト償金中二千萬圓ノ献納トニ依リ未タ增額ノ必要ヲ來ナサルハ世人ノ知ル所ナリ

皇室費ノ國家ノ經費ニ對スル比率ハ固ヨリ理論ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノニ非ス等シク君主國ニシテ專制政體アリ立憲政體アリ其政治上歷史上ノ關係右ニ異ナルヲ以テ國富ノ大小經費ノ多少ニ比率スルモノニ非サルナリ唯參考トシテ宮內省ニ於テ調査セル各國皇室費ニ關スル統計ヲ擧クヘシ

國名　皇室費額　國民負擔分頭額　總歲出ニ對スル比率

露西亞　一、二八〇、（萬圓）　一八、（錢）　二四（分厘）

英吉利（皇室費）　四〇〇、　一七五、（皇族費）

太利　三七二、

埃及　二九、

伊太利　五七七、

普魯西　七五四、

バーバリヤ（皇室費）　二〇〇、（攝政費）　二一、（皇族費）　三五、

日本　三〇〇、　六、八　五〇、　三、七

第二目　大統領ノ經費

大統領ノ經費ハ君主ノ如キ政治上、歷史上ノ關係ヲ有セザルヲ以テ皇室費ニ比シテ著シク少額ナリトス即チ佛國ノ如キ大統領ノ俸給ハ二十四萬圓、交際費十二萬圓旅費十二萬圓ニシテ米國ハ僅ニ十萬圓ニ過キス然レトモ民主國ハ大統領ノ選擧ト交迭トニ依リ直接間接、政治上、經濟上巨額ノ經費ヲ失フコト多シトス

第二項　議會ノ經費

議會ノ經費ハ議員諸費、廳費、俸給、諸給、修繕費、旅費、雜給、雜費等ヨリ成ルモ殆ト其全部ハ議員諸費ナリ、歲費ノ支給ニ付テハ英國ノ如キ無給制ヲ採ル處アリ、其要ハ公共心ヲ發達セシメ歲費ヲ目的トスル所謂政治屋者流ヲ杜絕シ選擧ノ軋轢ノ度ヲ減スルニ在リ、然レトモ無給ハ又議員ノ職ヲ財產家ノ獨占ニ歸セシムルノ嫌アルノミナラス、金力ニ依リテ主義ヲ動カスノ恐アリ、又一定ノ時ト勞力トヲ費ス者ニ對シ報酬ヲ與フルハ、條理ノ原則ナルヲ以テ有給制ヲ採ルモノ多シトス、尙ホ有給制ニ在リテハ一定ノ年額ヲ支給スルヲ例トシ、セトモ獨國ノ如ク、滯在日當ノ制ヲ採ルヲ以テ策ノ得タルモノナリト信ス、英國ハ無給制ナルヲ以テ議會費九萬磅ヲ費スニ過キス、佛國ハ歲費トシテ九千法ヲ要シ、總額千二百萬法ヲ費シ、普國ハ十五麥ノ日當ヲ支給シ、總額二萬麥ヲ費セリ、我國ハ歲費八百圓

ニシテ議會費五十餘萬圓ニ過キサリシモ議會自ラ增額シテ二千圓ト爲セシヲ以テ三十五年度ノ豫算ニ見ルモ貴族院五十九萬餘圓、衆議院八十三萬餘圓、內議員諸費ハ貴族院五十一萬餘圓、衆議院七十五萬餘圓合計百二十七萬餘圓ノ多キニ上リタリ

第三項　高等政廳ノ經費

高等政廳ノ經費ニ付テハ別ニ論究ヲ要スヘキモノナシ唯會計檢査院ハ一國財政ノ膨脹ニ隨ヒ其經費ノ增進ヲ見ルヘキモ其他ニ至リテハ經費ノ增額ヲ見ルノ要ナシ又行政裁判所ノ如キハ性質上司法行政費ノ下ニ入ルヘキモノタリ此他國家ノ記錄ニ關スル經費、演劇、美術、博物館、圖書館等ニ關スル經費ハ國ニ依リテ皇室費ノ下ニ包含セラレ又ハ佛國ノ如ク本目ノ下ニ包含セラルルコトアリ我國ノ豫算ニ於テハ皇室費ハ別ニ各省所管ノ經費ト對立セルモ議會、內閣、樞密院、會計檢査院及ヒ行政裁判所ノ經費ハ舉ケテ大藏省所管ノ下ニ編入セラレ其費額ハ三十五年度ノ豫算ニ依レハ內閣二十三萬圓、樞密院十三萬圓、會計檢査院十七萬圓、行政裁判所四萬圓ニシテ其大部ハ俸給及ヒ諸給ナリ

第三款　行政上ノ經費

第一項　外務行政費

外務行政費トハ外務本省費及ヒ在外公館費ノ二者ヲ包含ス其經費ノ分類ニ付テハ或ハ「バスチーブル」氏ノ如ク元首ノ經費ト對立セシムルアリ或ハ「ロッシェル」氏ノ如ク軍事費ト併セテ國防費ノ中ニ置ク者アリ其所屬一定スルコトナキモ外務行政ハ一方ニハ對外經濟及ヒ在外本國人ノ內務行政ヲ併セ行フモノナルヲ以テ普通行政上ノ分科ニ從ヒ別ニ外務行政費ノ一項ヲ設クルヲ以テ事宜ヲ得タルモノト信ス

公使館ノ設置ハ第六世紀前伊太利ノ諸國、法王ト和親ヲ保ツ爲メ使節ヲ羅馬ニ派遣シタルニ始マリ近世ニ至リテハ國際關係廣ク且密接ノ度ヲ增スニ隨ヒ國際間ノ交涉ニ當リ政治上ノ任務ヲ盡スカ爲メ互ニ使節ヲ駐劄セシムルヲ例ト爲スニ至レリ

領事制度ノ起原ハ中世紀ノ初メ十字軍ノ役ニ際シ軍器、糧食ノ供給、運搬ヲ爲スカ爲メ從軍シタル歐洲南部及ヒ地中海沿岸ノ商人間ニ起リタル故障ヲ裁判スルカ爲メニ各國法官ヲ派遣シタルニ始マリ現時ハ自國民居留ノ地ハ到ル處領事館ヲ設ケ一方ニハ所在本國人ニ對シ警察、司法其他一般内務行政ノ執行ニ當リ一方ニハ自國ノ爲メ外國市場ノ狀況ヲ視察報告スルヲ目的ト爲セリ後者ノ職務ハ國ニ依リテ領事以外ニ特ニ專務ノ官吏ヲ駐在セシムルコトアリ我國ニ於テモ今回商工事務官ナルモノヲ設ケ一定ノ土地ニ限リ之ヲ分掌セシメントセシモ豫算ニ於テ否決セラレタリ

在外公館ノ經費ハ他ノ官衙ト異ナリ公使、領事ノ行動ノ唯一ノ利器ハ金錢ナルヲ以テ我國ノ如ク歐米ト人情、風俗、言語、宗教ヲ異ニシ而シテ他ノ列强ト馳騁シテ國際間ノ交誼、政治上、經濟上ノ觀念ヲ全クセンニハ之カ經費ハ一層豐富ナルコトヲ要ス千八百七十年普佛戰爭ノ實效ハ巴里駐在ノ公使ニ對シ巨資ヲ吝マサリシコト其重キニ居ルハ一般ニ公認セラルル所ナリ

在外公館費ハ我國ニ在リテハ三十五年度ノ豫算ハ二百九萬圓ニシテ英、佛、普佛等ノ諸國ニ比シテ漸ク其半ニ至レリ

第二項　軍務行政費

第一目　軍務行政費ノ範圍、限界

軍務行政費ノ膨脹ハ第二章第二節第三款ニ於テ既ニ詳述セル所ニシテ我國始メ列國ノ軍事費ハ常ニ豫算ノ三分ノ一以上ヲ占ムルモノタリ而シテ現時ニ於テ軍務行政費ニ付テ論及スル所ハ軍務行政費ノ生產的ナルヤ不生產的ナルヤニ非スシテ如何ナル程度ニ於テ軍事行政ノ目的ヲ達シ得ヘキヤニ在リ換言スレハ軍事行政費ハ如何ナル限界ニ於テ之カ制限ヲ加ヘ如何ナル範圍マテ之カ必要ヲ認ムヘキカニ在リ而シテ軍務行政費ノ範圍、限界ヲ論センニハ先ツ軍事行政費カ社會ニ及ホス所ノ利害得失ヲ研究スルコトヲ要ス

軍事行政ハ國家其モノノ生命ヲ維持シ發達ヲ期スルカ爲メ必要ナル政務ナリ一方ニハ戰爭ヲ目的トシテ一方ニハ又武裝的平和ノ擔保ヲ爲スモノナリ其價格ニ至リテハ平時ニ於テハ固ヨリ間接ニシテ之ヲ算定シ得ヘキモノニ非ナル

ナリ故ニ平時ニ於テハ能ク公共ノ安寧秩序ヲ保持シ戰時ニ於テハ能ク戰勝ヲ得ルニ足ルヘシト認ムヘキ限度ハ一ニ當局者ノ認定ニ委スルノ外ナシ然レトモ其認定ヲ爲スニ當リテハ單ニ短期間ヲ以テ之カ標準ヲ定ムヘカラス戰亂ノ發生ハ固ヨリ豫期シ得ヘカラサルモ兵力充實セルトキハ戰時費ニ於テ平時十分ノ常備軍ナク一朝ニシテ之カ編成訓練ノ必要アル場合ニ比シテ著シキ少額ヲ以テ足レリト爲スヘキノミナラス兵力ノ充實セサルトキハ戰勝ヲ期スルコト難カルヘキヲ以テ完全ナル常備軍ヲ有スル國ハ結局長期間ニ通シテ費用ヲ要スルコト尠カルヘキナリ又一部ノ經濟學者ハ徵兵隊等ニ伴フ地方團體並ニ兵士、家族等カ支出セラルル經費及ヒ兵役中兵士カ產業ヲ中止スル所ノ損失ヲ軍事費中ニ計算スヘシト論スル者アリ然レトモ此ノ如キハ軍制カ既ニ必要ノ限界ヲ超過セル部分ニ付テノミ絕對ノ損失トシテ計算スヘキモノニシテ損害ノ性質カ既ニ直接ノ損害ト認ムヘカラス若シ之ヲ計算ニ入ルルトキハ兵士カ服役ノ爲メニ心身上ニ受クル所ノ利益モ亦計算ニ入ルルノ要ヲ見ルヘシ既ニ必要ナル限度ヲ超過セサル以上ハ縱令事實トシテ之カ損失ヲ見ルモ其損失ノ著シキ一部特種ノ者即チ特定ノ學校ニ在ル者、特定ノ職務ニ在ル者等ニ對スル免役、延期又ハ猶豫ノ例外ヲ認ムルノ外何等裁量ヲ爲スヘキ餘地アルコトナシ(徵兵令第二章參照)

軍事行費費ノ多少ハ固ヨリ單純ナル一般經費ニ對スル比率ニ依リテ決定セラルヘキモノニ非ス軍事行政費ヲ左右スヘキモノハ第一ニ國土ノ大小ナリ第二ニ國土ノ形狀ナリ海岸線國境線ノ延長大ナル處ハ國土ノ面積ニ比シテ之カ國防費ハ陸海軍費ヲ通シ巨額ノ支出ヲ要スヘキハ我國ノ實狀ニ徵シテ明カナリ第三ニ國際的地位ナリ歐洲ノ列國ハ米國ノ諸國ニ比シテ國力ノ平均ヲ維持スルカ爲メ經費ノ增進著シキハ明カナル所ナリ第四ニ對外貿易ノ國是ナリ英吉利獨逸其他ノ列國ハ到ル處對外貿易ヲ擴張シ在外本國人ノ保護、經濟上ノ利益ノ擴張ヲ期スルカ爲メ又巨額ノ軍事費ヲ支出セリ第五ニ殖民地ノ關係ナリ第六ニ國際間ノ條約ナリ或ハ攻守同盟ヲ組織シ或ハ特種ノ條約ノ下ニ軍備上又ハ交戰上格別ナル拘束ヲ受クルコトアリ又列國ノ條約ニ依リテ永久局外中立國トシテ軍事上ノ設備ノ必要ヲ見サル瑞西、ルクセンブルグ等ノ如キアリ此等

ノ諸點ハ列國各自ノ對外政策ノ方針ト相待チテ軍事行政費ノ決定ヲ來スヘキモノナリ

第二目　軍事行政費ノ節減

軍事行政費ハ必要ト認メラルル限度ヲ下ルヘカラス然レトモ軍事上必要ト認メラルヘキ目的ヲ達スルカ爲メニハ又其間ニ各種ノ體樣ヲ存ス等シク有效ニ目的ヲ達シ得ヘキ範圍ニ於テ成ルヘク其經費ノ節減ヲ計ルヘキハ固ヨリ其理ナリ而シテ其重ナルモノハ第一、兵制第二、軍隊ノ構成第三、軍事會計ノ三點トス

第一　兵制　兵制ノ沿革ハ本章第一節第二款第一項ニ於テ既ニ述ヘタル所ナリ而シテ所謂農兵ノ制、武士ノ制、傭兵ノ制ノ如キハ現時社會ノ狀況ニ於テ經濟上、政治上以テ軍事上ノ目的ヲ達スルニ足ラサルハ言明ヲ俟タサル所ナリ現時ノ兵制ニ於テ主トシテ議論ノ分ルル點ハ徵兵制、志願制及ヒ民兵制ノ得失ニ在リ後ノ二者ノ長所ハ特ニ兵役ヲ志願スル者ヲ訓練シ又實業ニ從事スル傍軍事ノ訓練ヲ受ケシムルカ故ニ產業ヲ妨害スルノ弊尠シト云フニ在リ然レトモ此問題ハ其國ニ於ケル軍事殊ニ陸軍軍備ノ狀況ニ關スルモノナリ英國ノ如ク海軍ヲ主力ト爲シ又合衆國ノ如ク多數ノ常備軍ヲ置クヲ要セサル國ニ於テ始メテ之カ得失ヲ論及スヘキモノニシテ我國其他歐洲大陸ノ列强ニ於テハ到底徵兵制ニ依ルニ非スンハ所要ノ常備兵ヲ充タシ又之カ經濟ヲ維持スルコト能ハサルモノトス但此等ノ國ニ於テモ未開ノ土地ニ於テハ一ハ其地ノ國防ヲ計リ一ハ其地ノ開拓ヲ計ルカ爲メ別ニ屯田ノ制ヲ採ルコトアリ我國北海道ニ於ケル屯田兵ノ如キ是ナリ明治二十三年勅令第百八十一號屯田兵條例第二條及ヒ第三條ニ依レハ屯田兵ハ兵農相兼ヌルノ制トシテ平常ハ給與ノ兵屋ニ住居シ軍事上ノ訓練及ヒ開墾耕稼ニ從事セシメ府縣ノ志願者ヲシテ家族ト共ニ北海道ニ移住セシムルモノニシテ服役期限ハ二十箇年ノ長キニ亘レリ又海軍ニ在リテハ我國始メ何レノ國ニ於テモ其兵數多カラサルヲ以テ志願制度ヲ採ルヲ原則ト爲セリ我國ノ如キモ一方ニハ海軍現役兵及ヒ補充兵ヲ募集シ(徵兵令第九條第二項)一方ニハ志願兵制ヲ併用シ志願兵現役中ハ家族アル者ニ限リ扶助

金トシテ一箇月金八十五錢ヲ給與スルコトト爲セリ(海軍志願兵條例參照)

徴兵ノ制ハ「フレデリック」天王ノ案出セルモノニシテ國內ノ壯丁ヲ募集シテ之ヲ訓練シ所謂常備軍ノ制ヲ立テタリ其後時勢ノ必要ハ益〻常備軍擴張ノ必要ヲ生シ遂ニ國民ハ總テ兵役ノ義務ヲ有スルモノト爲シ常備軍ノ兵數モ亦益〻增加シテ止マル所ナク佛國西革命ノ當初ハ將ニ其極點ニ達シ當時常備軍ノ數ハ人口ノ百分ノ一ヲ上ルニ至レリ然レトモ此ノ如キハ經濟上堪ヘ得ヘカラサルモノナルヲ以テ常備軍制ニ古代ノ農兵ノ制ヲ折衷シ所謂今日ノ徴兵ノ制ヲ見ルニ至レリ所謂國民兵制ト稱セラルルモノ是ナリ

第二　軍隊ノ構成　國民兵制トハ國民中ノ壯丁ヨリ一定ノ人員ヲ徴收シテ常備兵ト爲シ一定ノ年限中兵役ノ訓練ニ服セシメ其餘ハ國家事アリテ常備兵ノミニテ不足ヲ告クル場合ニ召集スルノ制ナリ故ニ軍事上ノ目的ト經濟上ノ目的トヲ相關聯シテ最モ複雜ナル研究ヲ要スヘキ問題ニ屬セリ即チ第一問ハ現役ノ兵數ナリ第二ノ問題ハ現役ノ期間ナリ第三ノ問題ハ戰時ニ於ケル兵數ナリ此等ノ問題ヲ決スルニ先チテ之ヲ我徴兵制度ニ徴スルニ我陸軍兵役ハ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役ノ三種ニ分タレ常備兵役ハ現役ト豫備役トニ、補充兵役ハ第一補充兵役ト第二補充兵役トニ、國民兵役ハ第一國民兵役ト第二國民兵役トニ細別セラル右兵制ノ上ニ於テ完全ナル軍事ノ訓練ヲ受クル者ハ常備役及ヒ後備役ニシテ第一補充兵ハ一部ノ訓練ヲ受ケ第一國民兵役ハ十分ナル教育ヲ受ケシ者ニシテ服役後十二箇年四箇月ヲ經過シ又ハ一部ノ訓練ヲ受ケシ者七箇年四箇月ヲ經過セシ者ニシテ第二補充兵及ヒ第二國民兵ニ至リテハ全ク軍事ノ訓練ヲ受ケサル者ナリ而シテ軍事行政ノ大本ハ成ルヘク多數ノ國民ニ軍事ノ訓練ヲ受ケシメ以テ國家ノ非常ニ備フルニ在リ此目的ヲ達スルハ第一ニ兵數ヲ增加スルニ在リ第二ニ現役ノ期間ヲ短縮スルニ在リ然レトモ兵數ハ國民經濟上又財政上之カ多キヲ望ムヘカラス隨テ現役期間ヲ短クスルトキハ常ニ同數ノ現役兵ヲ給養シテ多數ノ豫備後備兵ヲ得ヘク場合ニ依リテハ現役期間ノ短縮ニ依リテ又兵數ヲ削減スルコトヲ得ヘシ隨テ何箇年ノ現役ヲ以テ軍事ノ訓練ヲ完ウスルコトヲ得ヘキカハ軍務財政上ノ根本問題ナリトス

次ニ此等軍事上ノ問題ニ關聯シテ生スヘキ問題ハ國民ノ心身上ノ狀態ナリト

ス國民ノ心身上ノ良否ハ曾ニ軍事上ノミナラス一般經濟上最モ主要ナル問題ニシテ我國民ハ精神上ハ姑ク之ヲ措キ身體上之ヲ他ノ列國ニ比シ其發達ニ於テ兵役義務負擔ノ期間ニ於テ合格者ノ比率ニ於テ總テ遜色ヲ見ルハ世人ノ周知スル所ナリ

明治三十年十二師團ニ於ケル徵兵ノ統計

現住人口千人ニ付キ二十歲壯丁　九四八人

二十歲壯丁百人ニ付キ徵集　三三三七

二十歲壯丁百人ニ付キ現役　一一三三

二十歲壯丁百人ニ付キ兵役免除　七三〇

第三　軍事會計　軍事會計ハ海軍陸軍ノ間ニ大ニ其趣ヲ異ニス平時會計ト戰時會計ハ又其種類ヲ一ニセス海軍經理事務ハ陸軍經理事務ニ比シテ著シク簡單ナリ但海軍ニ在リテハ軍艦ノ行動不定ナルヲ以テ豫算ノ項目流用ノ弊生シ易シ陸軍ノ經理事務ニ至リテハ會計事務ヲ取扱フ官吏ト之ヲ監督スル官吏トヲ軍吏及ヒ監督ノ二者ニ區別セルハ他ノ經理事務ト其類ヲ異ニセル所ナリ軍用品ノ購買ハ最モ注意スヘキ點ニシテ我陸海軍ヲ通シ糧食被服兵器彈藥軍隊需要品ノ諸經費二千萬圓ヲ超ユ其出納ハ最モ弊害ノ生シ易キ點タリ軍事會計ハ他ノ會計ト異ナリ特ニ海軍主計學校及ヒ陸軍經理學校ヲ設ケテ會計吏員ヲ養成ス戰時ノ會計ハ一律ヲ以テ論スヘカラス唯戰時巨額ノ支出ニ對シ財政學上問題ト爲レルハ非常準備金制度ノ可否ナリ其詳細ハ公債編ニ於テ述フル所アルヘシ

第三項　司法行政費

第一目　狹義ノ司法行政費

狹義ノ司法行政費トハ監獄費ヲ除キタル司法行政費ニシテ主トシテ裁判所ノ經費ヲ謂フ裁判事務ハ古代ニ在リテハ我國又ハ歐洲ノ諸國ヲ通シ世襲ノ刑名學者ニ依リテ行ハレタリ此時代ニ在リテハ裁判事務ノ特許ヲ得タル刑名家ハ直接ニ自己ノ收入ト爲セシコト今日ノ辯護士ニ類セリ其後裁判ノ統一ヲ計リ直接政府ノ管理ニ屬スルニ至リテモ裁判請求者ノ納付スル報酬ハ政府ノ主要

ナル財源ノ一トシテ認メラレ遠ク中世紀ニ及ヒタリ所謂手數料ナルモノノ觀念ハ又其源ヲ裁判ノ報酬ニ發セルモノノ如シ尙ホ之ニ附帶シテ現時各國ニ於テ行ハルル司法手數料ナル收入ハ便宜手數料ノ下ニ於テ述フル所アルヘシ

司法經費ノ一般行政費ニ對スル比率ハ「ラウ」氏ノ如ク其最高限ヲ國費全體ノ八分ノ一ナリト論スル者アレトモ司法經費ノ範圍ハ裁判所構成ノ如何ニ依リ又他ノ行政費ノ消長ニ依リ固ヨリ之ヲ決定シ得ヘキモノニ非ス裁判所費ハ當初司法權ノ未タ統一セサリシ時代ニ在リテハ地方ノ諸豪族各一定ノ區域ヲ限リ一部ノ人員ニ對シ司法權ヲ有シ僧侶ハ又別ニ宗教裁判所ヲ有セシヲ以テ政府ノ裁判所費甚タ尠ク現ニ普漏西ノ如キモ近ク第十九世紀ノ前半ニ在リテハ監獄費ヲ合シテ國費ノ四分内外ニ當リ一人宛ノ負擔額四十「ペンニッヒ」内外ナリ後半ニ至リテハ一割二分内外ト爲リ二百五十「ペンニッヒ」内外ニ上リタリ而シテ近時裁判ノ統一ヲ全クシテヨリ尙ホ裁判所ノ費用ハ第一、裁判所ノ所數ニ依リ第二、裁判所ノ階級ニ依リ第三、單獨制合議制ノ別ニ依リ第四、訴訟手續ノ如何ニ依リ第五、裁判官ノ俸給ノ有無多少ニ依リ又其間ニ趣ヲ異ニスル所アリ

雜報

○舊商法ノ下ニ於ケル會社ノ登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡　舊商法第百八十條(新商法第一四九條)ニ曰ク「登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無效タリ」下此規定ニ依レハ其讓渡行爲ハ全ク無效ナルモノノ如シ卿チ此規定ハ或ハ(一)株主ヲシテ各株式ニ付キ少クトモ四分一ノ金額ヲ拂込ヒシメタル後(舊商法第一六七條第一六八條)ニ於テ始メテ讓渡スコトヲ得セシムルコトトスルニ非スンハ往往投機者流ヲシテ空株ノ賣買ヲ爲スニ至ラシタ會社ノ成立ヲ危ウシ延テ經濟界ノ恐慌ヲ來スノ虞アルカ故ニ右ノ禁制ヲ設ケタルモノナリト解セル者アル(ク)或ハ(二)登記前ニ於テハ第三者ニ對シテハ未タ會社ハ成立シ居ラス株式ヲシテ讓渡スヘキ目的ナキ者故ニ無效ナルモノナリト解スル者アラン東京控訴院ハ第一說ヲ採リ大審院ハ此後說ヲ採ル孰レカ如何大審院ノ判決理由ハ「舊商法第百八十條ハ登記前ニ於ケル株式ノ讓渡ハ其目的ト爲シ得サル詐欺觀定ヲ以テ認ルニ過キサリ讓渡行爲自體ハ其效力ヲ有スル」

コトハ本院判例ノ是認スル所ナリ然ルニ上告人ハ本訴株式譲渡契約ノ履行トシテ爲シタル代金ノ給付ハ禁止法若クハ善良ノ風俗ニ反スル事項ニ基クモノニアラサレハ上告人ハ其譲渡ノ無效ヲ主張シ代金ノ取戻ヲ訴求シ得ルモノナルニ原院ニ於テ其給付ハ禁止法若クハ善良ノ風俗ニ反スル事項ニ基キ爲シタルモノナレハ其返還ニ付法律上ノ保護ヲ求ムルノ訴權ヲ有セストノ趣旨ヲ以テ上告人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不法タルヲ免レス被上告人ニ於テハ登記前ニ於ケル株式ノ譲渡ハ射倖ヲ目的トスルモノニシテ性質上不法ノ原因ヲ目的ト爲スモノナレハ之ニ對シ法律ノ保護ヲ與フヘキモノニアラスト答辯スルモ射倖ノ性質ヲ有スル法律行爲ハ總テ無效ナリトノ法則アルコトナケレハ其答辯ハ失當ナリトス(大審院明治三十四年(オ)第三百三十號株式代金請求事件明治三十五年二月二十日第一民事部判決)此判決ニ依レハ登記前ニ於ケル株式ハ譲渡ノ目的物ト爲シ得ルモ譲渡行爲自體ハ之ヲ禁シタルモノニ非スト云フヲ在レトモ凡ソ法カ或行爲ヲ禁スルハ其目的ト相違スルモノニシテ法カ或事物ヲ以テ法律行爲ノ目的タルコトヲ禁スルトキハ即チ其禁シタル事物ヲ目的トスル法律行爲其モノニ效力ヲ付セサルナリ既ニ

法律ノ禁制シタル不法行爲ニ因リ給付シタルモノハ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノト結論スヘキカ如シ(舊民法財產編第三六七條第二項新民法第七〇八條)兎ニ角其取ル所ノ解釋如何ニ依リ其結果ニ大ナル相違ヲ來スコト右ノ實例ノ示ス所ナリ余輩ハ姑ク疑ヲ存シ讀者諸君ノ研究ヲ待ツ

○僞造手形ノ行使　證書ヲ僞造又ハ變更シテ行使シタル罪ニ付テハ果シテ如何ナル場合ニ於テ行使シタリト認ムヘキカ各種ノ文書ニ依リテ異ナルカ為而シテ其「行使」ト認ムヘキヤ否ヤハ事實問題ニ非スシテ法律問題ナリ然ルニ大審院ハ「行使」ヲ以テ事實問題ト觀ラルルモノリ如シ同院判決理由ニ曰ク原判文ヲ查スルニ明治三十一年十二月二十一日ニ至リ被告兵之助ハ就逮吏下里木藏代理戸井田好定ヲシテ中屠子爲稻葉正繩方ニ至リ右手形ヲ呈示シ云云トアリテ此事實ヲ行使ノ一所爲ト認メ判示シタル處ノナレハ原判決ハ所論ノ如き不法ナシト(大審院明治三十四年(れ)第一七六六號強盜殺人及ビ附帶私錄事件明治三十五年二月三日第二刑事部宣告)

○建造物毀壞ト器物毀棄　犯人カ建造物ヲ毀壞ノ目器物ヲ毀棄シタル場合ノ擬律ニ對シ大審院ハ說明ヲ與ヘテ曰ク「建物破壞ノ餘波器具ヲ毀棄スルニ至

ンタルモノナリトセハ其二罪ナルヤトハ上告論旨ノ如ク繼續シテ云云同ホ障子並ニ時計其他ノ器具ヲ毀棄シ云云トアリテ特ニ器具毀棄ノ意思アリテ之ヲ決行シタル事實ヲ認メアルヲ以テ別ニ一罪ヲ構成スルコト勿論ナリ故ニ原院カ本件被告等ノ行爲ヲ二罪ト爲シ數罪俱發例ヲ適用シタルハ相當ニシテ本論旨モ亦其理由ナシト（大審院明治三十九年（ク）第一九七號建造物毀棄及器物毀棄被告事件明治三十四年十二月十四日第一刑事部宣告）

○第二年級擬律擬制試驗　同試驗ハ去ル四月二十九日執行セリ其問題左ノ如シ

甲親戚宅地及宅地ノ上ニ建設セル家屋ヲ所有シ之ヲ抵當ト爲シ登記ヲ經テ乙ヨリ金一萬圓ヲ借用セリ然ルニ甲親戚ノ債權者丙大甲親戚ニ對スル債權ノ强制執行トシテ右宅地内ノ庭石、石燈籠並ニ家屋ニ附屬セル疊建具等ヲ有體動産トシテ差押ヘタルニ乙ハ之ニ對シ右物件ノ差押ヘ不法ナリトテ强制執行ノ手續ニ關スル異議ヲ申立ヲ爲シ其理由ヲ大ヘ申立ヲ爲シ其理由ヲ大ヘ

但登記ヲ經タル抵當證書ニハ庭石、石燈籠並ニ疊建具ヲ抵當ト爲スコトヲ記載セサリキ

右ハ如何ニ判決ス可キヤ（假用事ヲ）

（注意）被外注月賠償ノ際ハ必ス本紙ヲ切取リ所、氏名及年月日、賠償ノ月額ヲ記入シ郵便ヲ以テ何月分迄ト記入シ郵便ヲ以テ賠償スルヲ要ス

納付書

（　　）

一金

但第　年　月分月賠

右納付候也

居所

明治三十五年　月　日

刑事訴訟事件被告人計算係中

納付書

（　　）

一金

但第　年　月分月賠

右納付候也

居所

明治三十五年　月　日

刑事訴訟事件被告人計算係中

ノタルモノナリトセハ其一罪ナルコトハ上告論旨ノ如シ然レトモ原判決ニハ論旨所揭ノ如ク意思繼續シテ云云同ホ障子並ニ時計其他ノ器具ヲ毀棄シ云云トアリテ特ニ器具毀棄ノ意思アリテ之ヲ決行シタル事實ヲ認メアルヲ以テ別ニ一罪ヲ構成スルコト勿論ナリ故ニ原院カ本件被告等ノ行爲ヲ二罪ト爲シ數罪俱發例ヲ適用シタルハ相當ニシテ本論旨モ亦其理由ナシ」ト（大審院明治三十一年（れ）第一九九號建造物毀棄及器物毀棄被告事件明治三十四年十二月十四日第一刑事部宣告）

○第二年級擬律擬制試驗　同試驗ハ去ル四月二十九日執行セリ其問題左ノ如シ

甲藏宅地及宅地ノ上ニ建設セル家屋ヲ所有シ之ヲ抵當ト爲シ登記ヲ經テ乙助ヨリ金一萬圓ヲ借用セリ然ルニ甲藏ノ債權者丙太甲藏ニ對スル債權ノ强制執行トシテ右宅地內ノ庭石、石燈籠並ニ家屋ニ附屬セル疊建具等ヲ有體動產トシテ差押ヘタルニ乙助ハ之ニ對シ右物件ノ差押ハ不法ナリトテ强制執行ノ手續ニ關スル異議ノ申立ヲ爲シタリ

但登記ヲ經タル抵當證書ニハ庭石、石燈籠並ニ疊建具ヲモ抵當ト爲スコトヲ記載セサリキ

右ハ如何ニ判決ス可キヤ（飯田學士）

（注意）校外生月謝納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切拔キ居所、氏名及爲替番號、金額、並ニ學年別、月謝ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替劵ニ添附スルモノトス

納付書

爲替番號（　　）

一金

但第　學年　月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年　月　日

和佛法律學校會計局御中

納付書

爲替番號（　　）

一金

但第　學年　月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年　月　日

和佛法律學校會計局御中

校外生規則摘要

一　講義錄ヲ分チテ第一學年、第二學年、第三學年ノ三部トス

一　講義錄ノ揭載科目左ノ如シ

第一學年　法學通論、民法（第一編及ヒ第二編第六章マテ）、刑法（各論）、憲法、國際公法、經濟學

第二學年　民法（第三編）、商法（第一編、第二編、第三編）、刑法（各論）、民事訴訟法（第一編、第二編）、刑事訴訟法、財政學

第三學年　民法（第二編第七章以下、第四編、第五編）、商法（第四編、第五編）、民事訴訟法（第三編以下）、破産法、行政法、國際私法

一　講義錄ハ毎月六回左ノ期日ニ發行ス

第一學年　五日　二十日　第二學年　十日　廿五日

第三學年　十五日　三十日（但二月ニ限リ末日）

一　校外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得

一　月謝金左ノ如シ

第一學年　金三十錢　第二學年　金四十錢

第三學年　金五十錢　全學年　金一圓

一　月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、通運早達便ヲ以テ東京市麹町區富士見町六丁目十六番地和佛法律學校會計局宛ニテ送付スヘシ

明治二十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可

明治三十五年五月九日印刷
明治三十五年五月十日發行
（定價金貳拾五錢）

東京市牛込區東榎町十七番地
編輯兼發行者　松田久次郎

東京市牛込區矢來町三番地
印刷者　小宮山信好

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
印刷所　金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地
發行所　司法省指定　和佛法律學校
（電話番町百七十四番）